第二十二号

茶道雜誌

慶應大学茶道部会
書道部

詩　頭　巻

旅人よ

「旅人よ
お前は何処にゆくのだ
一人で何処にゆくのだ
お前はゆきすぎはしないか」
「私は
ゆきたい処までゆきます、
自分で気がすむ処までゆきます。
一人でも、二人でも、三人でも
百人でも、千人でも、万人でも
ゆきます。
あともどりは出来ません。
ゆく処までゆきます」

武者小路実篤

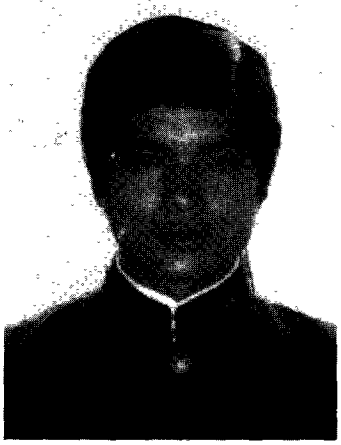
福岡大学　学術文化部会　書道部

第25代　基本方針案

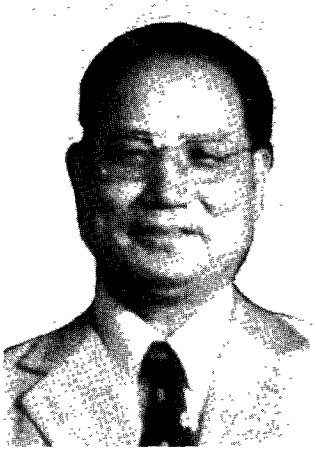
現在、我々は書道部員であるという自覚に欠けている為サークル活動が充実していない。そこで各人が目標を見い出し、書技向上、親睦融和を図り、積極的にサークル活動に参加することにより、部員が一致団結し活気あるサークルを目指す。

第25代　練習方針案

- 古典の臨書・墨田書例を中心に幅広い練習をする。
- 席書会・批評会等を取り入れ、バラエティに富んだ練習をする。
- 他大学との交流を多く持ち、その書風を自己の書に生かす。
- 各展覧会への出品を通じ、書技向上へのステップとする。

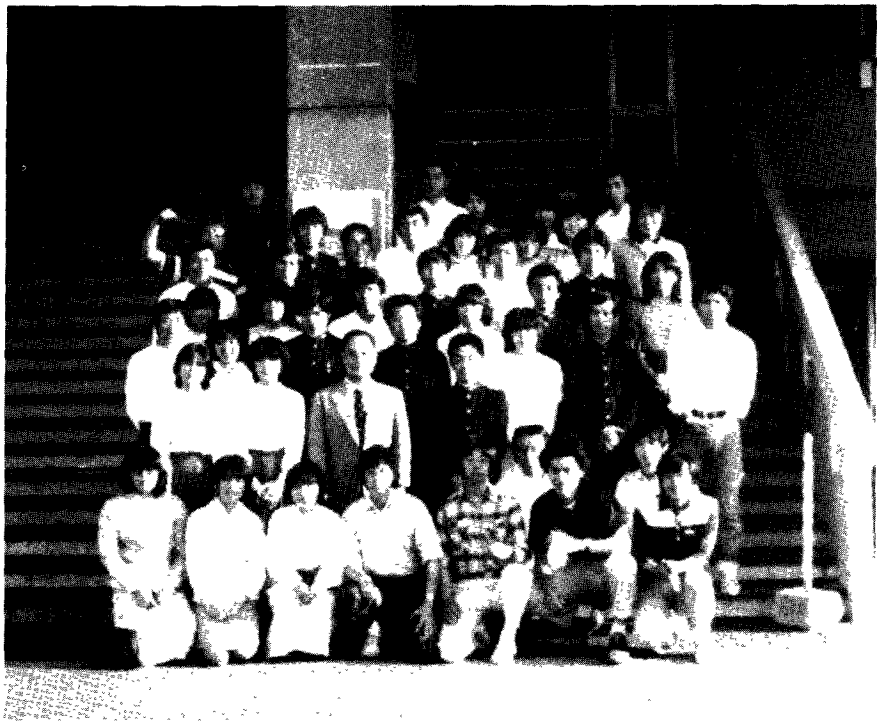


幹事　床嶋俊一



講師　赤木石掃

部長　小西高弘



二　年　生

後段左より　江里口　小田部　満生　梅崎　津村

中段左より　大宮　坪矢　高橋　志岐　山城　柴田

前段左より　簑原　鷲崎　西口　松山　高杉　中村

一　年　生

後段左より　石橋　鍋藤

中段左より　諫山　豊田　田原　木崎

前段左より　市川　　貞苅　大場

四　年　生

後列左より　三小田　藤原　大家　鶴田　原口　成田　重松　鶴岡　松尾

前列左より　　中村　酒井　十代田　浦　佐藤

三　年　生

後列左より　椛島　崎坂　丸田　濱田　床嶋　城戸　児玉

前列左より　野村　安倍　渡辺　松藤　手島　横山　天野　佐藤

目次

赤木石掃先生書

巻頭詩

目次……1

序……6

特別寄稿欄 I

今日の福大生について……書道部部長 小西高弘……7

私の趣味の紹介……書道部講師 赤木石掃……7

時間の使い方について……常任幹事会幹事長 城ノ下真二……8

在校生に望むこと……書心会会長 柴田一夫 昭和三十六年度卒OB……9

自由投稿欄

大学生となって……法学部一年 鍋藤利浩……11

分岐点……人文学部三年 手島玲子……11

酒……法学部二年 坪内一義……12

美……商学部四年 成田睦子……12

サークル……法学部二年 鷲崎ゆみ子……13

大学生になって……工学部一年 江越健二……13

今、大切なこと……人文学部三年 渡辺泰子……14

アナザー・ライフ……経済学部一年 千葉達也……14

友……工学部二年 山城邦敬……15

中学時代のある文集より……法学部四年 鶴田定司……15

男と女……薬学部三年 天野仁子……16

サークル活動へ …… 経済学部四年 重松裕人 …… 17
私の大学生活 …… 法学部一年 松本真士 …… 17
希望を持つこと・絶望すること …… 理学部三年 松藤美津子 …… 18
流れ …… 法学部二年 柴田直人 …… 18
春ノ日ノ油山ニテ …… 経済学部四年 浦泰介 …… 19
目標のない人生 …… 法学部一年 諫山聡 …… 19
男とは …… 経済学部二年 満生憲親 …… 20
福大書道部に入って …… 商学部一年 田原信秀 …… 20
自然の中で …… 経済学部三年 桃島文子 …… 21
この一年僕は何をしたか …… 経済学部二年 小田部二三典 …… 21
意志の疎通について …… 人文学部四年 三小田佳子 …… 22
一年が経って思う事 …… 商学部二年 高橋福代 …… 23
大学生活のはじめに思うこと …… 人文学部一年 貞苅静香 …… 24
ある春の日に …… 工学部二年 西口公恵 …… 24
歩幅 …… 経済学部三年 濱田清治 …… 25
一抹の光 …… 薬学部四年 藤原弘美 …… 25
旅と人生 …… 経済学部一年 石橋正隆 …… 26
大学生活二年目を迎えて …… 法学部二年 梅崎孝夫 …… 26
回想 …… 経済学部四年 酒井昌弘 …… 27
日本的考え方とは …… 法学部二年 平田経子 …… 28
わ・た・し …… 経済学部一年 市川初江 …… 28
大地 …… 経済学部二年 江里口吉光 …… 29
私の人生感 …… 工学部四年 中村和美 …… 29
心の中を …… 経済学部二年 中村純一郎 …… 30

無題……人文学部三年　野村敬子……31
ボンヤリと……商学部四年　原口豊子……31
書道部に入部して……経済学部一年　増田稔……32
今、思うこと……法学部二年　簑原千枝……32
書道部入部にあたって……商学部一年　木崎和彦……33
「甘え」の構造（甘えと自由）……商学部四年　鶴岡英子……33
幸福を求めて……法学部三年　城戸信比古……35
人間関係……法学部一年　豊田隆昭……35
浅い夢……商学部二年　松山理恵……36
「花」と「私」……商学部一年　大場満恵……36
春……法学部二年　大宮一……36
一考察……商学部三年　丸田俊和……38
クラブに入る前と後の変貌……経済学部二年　津村文彦……38
巨視的に……藁学部三年　佐藤朋子……39
海……商学部二年　志岐直樹……39
恵まれた社会生活の中で……法学部四年　松尾幹雄……40
三年目……法学部三年　崎坂真弓……40
くじけそうになった時に……商学部二年　二村暁美……41
自分自身への戒め……工学部三年　横山佳代子……41
自己をみつめて……商学部二年　高杉素子……42
〃絶対的真理〃……工学部三年　床嶋俊一……42
書道部ー先輩として後輩としてー……経済学部四年　大[illegible]一之……43
先敗から始まる……人文学部三年　児玉富美……43
巣立ち前……理学部四年　十代田雄治郎……45

部員の一言 …… 46

特別寄稿欄 Ⅱ

女子部員の積極性 …… 昭和四十三年度卒 坂下（海尾）千代子 …… 52
「十兵衛」 …… 昭和四十七年度卒 野小生 周作 …… 54
サークル観 …… 昭和四十九年度卒 地頭薗 裕考 …… 55
大学生 …… 昭和五十一年度卒 大庭 敏夫 …… 56
第21代年間行事 …… 57
行事を振り返って …… 59
広告欄 …… 63
福岡大学学術文化部会書道部規約 …… 72
福岡大学学術文化部会書道部員名簿 …… 75
福岡大学書心会規約 …… 80
福岡大学書心会員名簿 …… 82
昭和56年度・福岡大学書道部役員名簿 …… 92
編集後記

序

福岡大学書道部機関誌第二十二号「荒鷲」が発刊できますことは誠に慶びにたえません。

我部も今年で二十一年目を迎え、諸先輩方の築いてこられた伝統を守りつつ、着実に発展の一途をたどってまいりました。

今後、我々は、我部のサークル目標である『部員相互の親睦融和をはかり、人間形成を目指すと共に書道文化の普及、書技向上を目的とする』を個々人が正しく認識すると共に、サークル活動を通じて体得するように努めなければなりません。また原稿を寄稿することにより自分自身を見つめ直し、書道部員たる認識を深め、自信と誇りをもってサークル活動を行なって頂きたい。

第二十一代幹事　床嶋俊一

第二十一代基本方針

現在、我々書道部に於いて部室、日本間の軽視、書技の低下などの問題があげられているが、その根本的な原因は書道部員としての自覚、認識の欠如にある。そこで書道部に対し積極的にかかわることにより部員の自覚、認識の強化をなし、意識の高揚をはかると共に親睦融和をなし人間形成、書技向上を目的とし研学なサークルをめざす。

今日の福大生について

書道部部長　小西高弘

「今日の」という形容詞がついている以上、何か変った福大生について述べよ、ということであろう。しかし私は、学生とはいつの時代においてもそう変らないと信じている者の一人である。

学生とは悩み多き青春時代である。青年期の戒めとして、「血気未レ定戒レ之在レ色」（論語）といっているのは、蓋し明言であろう。学生は学問しようと七隈学園にやってきたのに、学問は手つかずのまま、恋するうちに卒業期を迎えてしまう。よほどの志を持たぬかぎり、時流に押されて一瞬の青春時代を終ってしまう。青春とは瞬時の出来事である。

とはいえ、何か変ったものがあるとすれば、それは形態上の変化であろう。福大が社会的に評価されるにつれて、入学試験は年々困難さを加え、成績のいい学生が入学してきているのは事実であろう。しかしその能力が平均化し、画一化した学生が、というより国公立の亜流が福大の学生を形成する。本人達もその意識らしく将来の希望はときくと、公務員という返事が帰ってくる。「バランス型人間」があまりにも多く、「情熱型学生」が少なくなった気がする。

以前の福大は、高校時代のコンプレックスに悩んだ学生が七隈学園でノビノビと活動し、福大とともに生きる情熱を持ち、またそこに誇りを持とうと頑張っていたように思う。そんな気がする。かかる福大気質は失われつつあるのではないか。福大生はこれでよいのであろうか。

バカであることと、バカになりきることとは異質である。学生バカになりきってこそ、何か人間的なものを創造することができる。学生までが評論家まがいになり、「カッコ」よく時を過している。それは学生ではない。

学生は無心になって本物をみつけだす努力が必要である。それには忍耐がいる。学生の時代にしかできないことを、学生時代に行ってこそ人生があり、学生がある。生きることと、過すこととは別である。学生は未来をみつめ、今日を生きねばならぬのであって、今日を過すのではない。今日死んでもいい学生生活をやってもらいたい。

こういうと、福大生に失望していると、うけとる学生もいるかと思うがそうではない。私は福大生に無限の愛情を持つが故に、一人でも多い福大生が情熱をもって自己の能力を開発し、真の自己に目覚め、七隈学園に学んだことを誇りとしてほしいからである。

本ものとは何か。これが学問であり、七隈学園に学んだ学生が、いま忘れようとしているのではないか。

福大を二十一世紀の学問殿堂にするために。

私の趣味の紹介

書道部講師　赤木石掃

「趣味とその心」と言う難題の御注文。とても私にはその心まではわかっていないのです。又、そんな題目で書くと、いかにも私は趣味の八百屋であるかのような誤解を生じかねない。先ず、今年は私の趣味の言い訳をさせていただき、来年その続きとして「その心」を述べる機会が

あれば……と思う。

私の第一の趣味は、書道の古典の勉強です。隷書から行書まで。時代で言えば漢から呉昌碩の時代まで。仮名も好きである。地金はやはり県展の特選をとった昭和二十九年の六朝系の楷書と昭和三十年の関戸古今と言うことになるのかも知れない。日本伝来の茶道や華道や箏曲等は、家元と言うのがある。勉強は家元の芸を修得することになって、師範や準師範等の肩書きがつく。ところが西欧の芸には家元がない。ピアノにも絵画にも段級や師範の名を聞いたことがない。ところが、最近は、書道も次第に古典の勉強をしなくなって、先生の手本に似せるのが勉強の究極のようになってしまった。日展も毎日展も家元の合同展か選抜展のようになってしまった。だから、このような家元の傘下で家元の真似程度の勉強をしている人が書道の第一線で勉強している人であって、古典の勉強をして、本来の正しい勉強の方向をたどっている連中は、第一線から退いた者だと誤解される程、書道界は今、企業化されつつある。私はあくまで趣味として、今後も書道の古典の勉強を柱として作品を発表してゆくことを第一線でやっていくつもりです。

次の趣味はレコードを聴くことです。あまり堅くなって字を書いても面白くないので、クラシックを大体一晩に三枚かけます。それを聴きながら書くと、四十字の五言律詩であれば二十枚書ける計算になります。だから、二時間で八百字から千字の稽古をレコードを聴きながらやることになります。皆さんもやってみたら!!

この二つは表裏一体だから、一つの趣味と考えて差し支えないが、もう一つは、顔に似合わずマンドリンとギターで遊ぶこと。二つのテープレコーダーを使って、まずマンドリンのファーストを吹き込む。それを鳴らしながらセカンドを弾いてもう一つのテープに吹き込む。ついで、ファーストとセカンドが鳴っているテープにギターを吹き込むことになる。一人で三重奏を作りあげるわけです。曲はマンドリンのオリジナル曲でないと嫌いです。自分が演奏したものに、又追加吹き込みをするのは大変タイミングが難しいものです。

もう一つは、暴露するのはいやだが、クレー射撃。これは余り白状したくないのですが（射撃に対する理解が一般にないから）心ということになると、これ程難しいものはありません。弓道もなかなか面白い境地だと思うが、あれは的が止まっています。クレーの飛ぶ速さと弾丸の速さを一点で合致させる心と体の動きは、結論として「心」で決まることに落ち着きそうです。

以上三つの趣味の御紹介が、皆さんとの人間交流の御理解に役立てば楽しいことですので、恥をしのんで白状させていただきました。

何卒今年もよろしく。

時間の使い方について

福岡大学学術文化部会
常任幹事会　幹事長　城ノ下　真　二

私は、先輩から「学生時代がいいね」という言葉をよく耳にします。先輩方には種々なお考えがあり、そう言われていると思いますが、私は時間的制約の大小が大きな要因としてあるのではないかと考えます。私達学生のほとんどは、親からの仕送りをもとに学生生活を送り、自分の学生としてやりたい事を比較的自由にやれます。しかし、社会人となれ

ば、自分の仕事や生活を考えなければなりませんし、”働かざる者、食うべからず“の毎日であると思います。

それでは、時間的制約の比較的少ない私達学生は、如何に学生生活を送ればいいのでしょうか。専門の学問や技術を身につけ資格を取る学生、スポーツで心身の鍛練をやっている学生、あるいは大いに遊んでいる学生など種々な過し方があります。私達学生には、それぞれの価値観があり、どのように過ごせばよいか一概には言えませんが、私は、自分で納得のいく、又、他人からも認められ得る学生生活を送れたら一番いいと思います。

そのような学生生活を送るにはどうすればいいかと言えば、そのいい例がサークル活動に参加することがあげられます。サークル活動は、その学生の個性と能力のおもむくところに従い、そのサークルの特殊性を追求しようとする同行の学生が、相互に協力し、正課活動以外の時間を活用し、自主的に行うのが原則です。学術文化部会のサークルも同様であり、福岡大学学友会に於いて、学術文化の振興に寄与する団体として認められています。学術文化部会の一サークルであります書道部においても、部員相互の切磋琢磨を重ねつつ、部員の書技の向上及び書道文化の普及に寄与しています。これは、日常の活動、連盟でのリーダー的存在としての活躍、西日本高等学校揮毫大会の主催等、自他共に認めるところだと思います。

以前、本で読んだ誰かの言葉に”時が過ぎていくのではない、私達が過ぎゆくのだ“というのがありました。大学四年間が過ぎていくのではなく、私達が大学四年間を過ごすわけです。私は、この長いようで短い四年間を何かに打ち込んで過ごせたら、そして、どうせ過ごすなら自分の為、他人の為になる価値ある活動を成す事ができたら一番いいと思います。もちろんその過程に於いては苦悩すると思いますが、私の経験から言わせてもらえば、懐しい想い出の多くは、辛かった事を乗り越えた想い出がほとんどだからです。

在校生に望むこと

昭和三十六年度卒O・B
書心会会長　柴　田　一　夫

人間オギャーと生れた時から、死ぬまで孤独であり、いくら親身になってくれる肉親や友人でも自分になりきり、自分の気持が百パーセント理解できるはずがありません。

しかしながら百パーセント理解してもらおうと思うほうが無理なことで、無理とわかればどうすればよいか、どうすべきかを人間は必然的に考えるようになります。

では一般的にどのような方法があるでしょうか。それはより多くの理解者を作ることです。百パーセントの理解ができなければより多くの理解者により多くの満足をうるようになります。

わたくしは子供に対して常々一人でも多くの友人を作りなさい（良い友達、悪い友達区別なく）と説いております。それはなぜか「人間（特に社会人）の財産は多くの知人、人脈を持っていること」であると何かの本で読んだことがあります。

自分一人ではなんにもできません。他人と共同でことにあたらなければうまくいきません。それには相手から信用されることが第一歩、貸し

借りの人間関係だけでなくアイツは信頼のできる奴だ、なにかのときには一肌ぬいでやろう。そう信用してもらえる人脈を積み重ねていくのが人的財産です。

そのためには「小さな約束を守ること」。大きな約束はゼニ、カネがからんでいるから大てい忘れないが小さな約束は仕事の多忙になまけてつい忘れがち、小さな約束をちょくちょく守らないようでは、まず信頼をえられません。小さな約束の累積が結びつき、これが人脈の厚みを増すことなのです。

いま振り返って人脈リストが何頁加ったかは、はなはだ心もとありません。信用をうるのはむずかしく、信用を失うのはやさしいのです。この平凡な真理が私達年代には骨身に泌みるこのごろであります。

なぜまわりくどい前書きをしたかは、大学生活とは何か、学究の府といえばカッコイイが平たくいえば勉学に励もうが、自分の専門分野を究明しようが、また徹底的に遊ぼうが、誰も知ったことではありません。まわりは何も干渉しようとはしません。いわゆる孤独であり、友人もできにくいのです。そこで私は毎年新入部員の皆様方に対して君達は大学生活でベストな道を選んだと思います。何も書道部に入部したからではなくどんなサークルでもよく、人と人とのまじわりはサークル活動や寮などの集団生活をすることにより人間が一回りも二回りも大きくなり社会人になってからの人脈に大きく役立つことうけあいなのです。

六本松ハウジング

（事務所）福岡市中央区六本松二丁目６－８
〒810 ＴＥＬ（092）711－8025

喫茶 レストラン ブルボン

福岡市西区片江福大厚生会館前
カレッジサイドプラザビル２Ｆ　ＴＥＬ 863－1394

気になる髪の為今お手入れ時

美容室 あっぷる

定休日
各店共第３日曜日

（七隈店）西区七隈４丁目５－８ＴＥＬ801 －2544
（長尾店）西区長尾３丁目９－７ＴＥＬ 511－4291

大学生となって

法学部　一年　鍋藤利浩

苦しく、長く思われた受験生活を通り抜けて、福岡大学に入学し大学生となる事が出来た。最初の一週間は、初めての大学の講義を受けたり、高校の時は自分でする事の無かった手続きを、自分自身でしなければならなかった。この時私は、大学生とは一個人の人間として見られるのだと感じ、それと共に、四年間を有意義な物にしようと決意したのです。

そして、この決意を実行に移すためには、サークル活動に参加することが最善の方法ではないだろうか。この大学生活の「自由な時間」と言うものを有効に使うことを考えねばと思った。

しかし、いざサークルに参加するといっても多くのサークルがあり、何のサークルに入るか迷っていると、私の下宿に、書道部の先輩がいて書道部の事を聞いていくうちに、私は、このサークルに入って見ることに決めて、書道部に入った。先輩に話を聞いていた以上に厳格なので驚いたが、やはり何事にも厳しさと言うのが必要である。先輩方の書道に打ちこむ姿勢を模範として、四年間悔いが残る事の無いように、書道の道を歩き続けようと思うのである。

分岐点

人文学部　三年　手島玲子

三年目……この言葉が重くのしかかる。二年の時はまだ二年であっても、三年になるともう三年という感じに変わる。そういう意味でも、三年目はひとつの分岐点といってもいい。もうあとがない三年目は、誰もがある種の決心をする。それはもう自分自身で決めることであって、他人に甘える余地はない。

高校時代の友人は、今春ほとんどの人が社会人となり、その多くは共に目ざした教師となった。そのことは私に励みを与えてくれる。あと二年で彼女らに追いつくのだと思う。あと二年の辛抱である。四月一日付の新聞を見た時、何かしら明るい気持ちになった。二年後の自分に心のどこかで期待をし、私を明るくしたのかもしれない。あと二年で彼女らに私は追いつける。追いつかねばならない。三年目を分岐点に、私は頑張ろうと決心する。

そしてもう一つ、分岐点となった三年目であった。それは辛いことではあったが、乗りきらねばならぬことを余儀なくさせられた。それも、私が三年目を迎えたからである。この時ほど三年目をうらめしく思ったことはない。それにしても、何と辛い分岐点であろうか。

日が暮れる　この岐れ路を　橇は発った…
立場の裏に頬白が　啼いている　歌っている
影がます　雪の上に　それは啼いている　歌っている
枯木の枝に　ああそれは灯っている　一つの歌　一つの生命

〃酒〃

法学部　二年　坪　矢　一　義

大学生活も今年で二年目になり、寮にもクラブにも〃ピカピカの一年生〃が入ってきた。当然俺も先輩になったわけだが、先輩としてまず後輩に何をしてやればいいのか全々わからなかった。そこでとりあえず寮の一年を二人連れて焼き鳥屋に行った。（俺が入学した時もそうだったから……。）今思えばこの一年間よく先輩と飲みに行ったものだ。考えてみれば、どんな酒の場でも俺が顔を出していたような気がする。みんな〃坪矢は酒好きだ〃と思っているに違いないだろう。しかし、俺は酒が好きなわけじゃない。ただあの雰囲気が好きなだけだ。大ぜいで飲みに行けばそれに合った雰囲気を作ってくれる酒、二人だけで行けばそれに合った雰囲気を作ってくれる酒、俺はそんな酒の持つ〃魔力〃が好きだ。また、まったく知らない人間を友にしてくれる酒、俺はそんな〃酒の取り持つ縁〃が好きだ。そう言えば先日、幹事に連れられて幹事コンパに参加した。俺には何の関係もないコンパだったが、いろんな幹事と知り合え、いろんなサークルの考え方を知ることができた。まさに〃酒の取り持つ縁〃だ。昨夜は高校の時の友達が女にふられたと言って俺の寮へ来て俺を飲みに誘った。こんなとき、男はなぜ酒を飲むのかわからないが、それでもやっぱり、酒はその男に合った雰囲気を与え、その男を慰めた。俺が思うのに、酒は〃男の特権であり、男の逃げ道でもある〃ような気がする。俺は酒を飲まないと本音を言えない面がある。まさに酒は俺にとっての逃げ道である。そんな逃げ道をつくってくれる酒に俺は感謝する。今後も酒を通じ、いろんな人間と接したい。

『美』

商学部　四年　成　田　睦　子

春休みに、ちょっとした機会で日本でも有名な美術館や神社を巡った。時に、美の心・真随に触れたような気がして、瞠目せざるをえなかった事は今でも忘れられません。本当に美の芸術、朦朧というものが誘う神秘感には魅了させられました。私は一つ一つの絵画を前にして我を忘れ茫然と立ち尽くしていました。生きて追って、追真的である絵や書や境内……に比べて私の書、絵、生花……心なんか『死んでいる』の一言でした。

泉鏡花「希くば満天下の妙齢女子、卿等務めて美人たれ、其の意の美をいうにあらず、肉と皮との美ならむことを熱心に、汲々として勤めし時のなお足らざるを憾みとせよ。読書、習字、算術、等、一切の学科何かある」心の美しい人間に出会った時に何かしら引かれます。心の美しい人間、つまり心臓のあるところに芸術があるのではないでしょうか。

遊んでいる時、楽しい時、血行がさかんになり、顔色は桃色にかがやき、いきいきとして、疲れることを知らないし、時間も忘れてしまいます。ここに人間のあるべき本当の姿があるのかもしれません。人間の目や心は輝いています。書道をするときも、遊びの行為と同じような心理状態に、一歩でも近ずきたい。近付かなければ、芸術としての書は書けないのかもしれません。

東洋の書は、修練の極致になお人為を超えた偶然というか、神意というか、個人の心の極致に個人の意志を超えた大いなる力がはたらくという。芸術の中で一番、書を愛している、今、現在、書に、自分の精神のリズム、生活のリズム、生きとし生けるものの緊張感・生命感が少しでも伝わったらと思わざるを得ません。自分で創造した頭のなかの理想や幻想をかたちにできたら……。

桜の花は、一瞬のうちに散るが、その一輪一輪を姿よく、精一杯に咲かせるためには、長く苦しい「冬の時代」の試練をへなければ本物になれないという。桜の花芽は何枚ものりん片の重ね着をして酷感や氷雪に耐えてこそ、あの美しい姿を私たちに楽しませてくれる。私の芸術も心もこうありたいとつくづく思う。修練の極致において心の美を実現したい。

サークル

法学部　二年　鷲崎　ゆみ子

点や線が集って一つの文字ができ、その文字が集って一枚の作品ができあがる。

たった一人のあり方が全体のあり方に影響を与えるサークル活動において、一人一人が自分の立場を認識し、行動することはとても大切で、むずかしいことだ。自分一人で考え、一番適当だと判断して行動してみても、別の人にとってはそれが不思議な行動に見えることも多いし、また、知らず知らずに他の人に迷惑をかけてしまっていることも多い。「自分の立場」はまた「他の人の立場」でもあるわけだから、他の人の考えを理解し、他の人に自分の考えを理解してもらうことが必要だ。そのためには、日頃からできる限りみんなと話す機会を多く持たなければならない。

いろいろな考えを持つ人の集り　あるサークルの中で、確実な一点を占めるサークル員になれる様努力するつもりだ。

大学生になって

工学部　一年　江越　健二

ぼくは期待と不安をいだきながら、運よく大学に入りました。大学に入学したら、こんなこともしよう、あんなこともしてみたい、思いっきり学生生活を楽しもうと思っていたのに、入学後、なんとなくピンを張りつめていたものがなくなってしまいました。

しかし、ただ四年間、下宿と大学の間を行ききするのは、惜しいと思い何か一つ大学生活の中で思い出に残る事をやろうと思いました。

そこで、工学部だからというためらいもありましたけれど、サークルに入部して、人間形成の場としてすこしでも大学生活を有意義に過ごしていこうと思い入部したのが、伝統ある、規律正しい、すぐれた書家を育成する〃書道部〃です。ぼくも、この書道部の名を汚さないように努力しようと思います。

最後に、もっと簡単に考えていた書道も、今、除々に深みを知るという感じです。また、先輩方の書を拝見していると、自分も早く、自分な

りに努力して、納得のいく作品を作ってみたいと思います。今から四年間、苦しいこともあると思うけれど、初心を忘れることなく、あらゆる面に全力を尽くしていきたいと思います。

今、大切なこと

人文学部　三年　渡　辺　泰　子

人間はとうてい一人で生きられるものではない。人が人間らしく生きられるのも、また、人間として大成するのもすべて人と人との間にあってどう生きていくことができるかということにかかっている。

実際、私達の生活はちょっとした日々の人間関係によって浮きもし、沈みもし、明るくもなり暗くもなり、生きがいも感じれば死ぬような思いもするのである。

また、生きている限り、いやな人や苦手な人を避けることができないという冷厳な現実に直視しなければならない。

私は、自分自身人づきあいはそんなに悪くないと思っていたが、もっとよく考えて見ると自分が気持ちよくつきあえる人達というのはだれにも好かれ、人と協調しようと努力している人が多いのである。つまり、人とうまくやっていくということは人様まかせで、自分は、そういう人間的にできた人達だけとつさあっていて、人づきあいは一人前だと錯覚してしまっているのである。

対人関係は相手の問題ではなく、まず自分の心の問題だと思う。

今の私にとって大切なことは、自分をありのままに受け入れて、そこから出発するということだ。これはもちろん、現状を肯定して進歩を望まないということではなく、ただ人間にはその段階段階でできる範囲というものがあり、限界というものがあるという事実を率直に認めること言いかえると、自分を自分以上に見せかけようとしたり、自分以下に見せようとしないこと。そして、自分のありのままの姿で全力をつくすことであり、さらにその結果については他人のせいにしたり不運のせいなどにしないということである。

自分を飾らず、素直に生きていきたい。そして、まず、自分にとって真の友になりきりたい。これが、今の私にとって大切なことではないだろうか。

〃真の友とは、自分の長所も短所もよく知っていてくれ、それでもあいそをつかさないでいてくれる人である。〃

アナザー・ライフ

経済学部　一年　千　葉　達　也

街が色づき、新しい季節を告げられても、手放しに喜べない気分。見知らぬ土地で友もなく、不安だらけの毎日が過ぎてゆく。孤独をこんなにも痛切に感じたことが今までにあっただろうか。今まで、中学・高校とバスケットボールという一つの事に打ち込んできて、練習の厳しさ練習後のやすらぎを味わい、一つの事を目的とする友人ともめぐり逢い一緒にやってきた。人が遊んでいる時も練習があり、想い出といえば、バスケットがその大部分をしめているけれども、それなりによかったと

思っています。今、大学に入って、毎日を学校へ行って帰るだけの生活では空しすぎるし、あとで後悔しそうだから、どこかのクラブに入ろうと思っていました。それが今流行の『なんとなく』という言葉のごとく書道部の一員になっている自分。偶然か、運命か、不幸か、幸福なのかまだはっきりとわからないけど、悪い結果にはならないと思っています。結果的に、うそをつくようになるのはいやだから、他の人のように書道部で四年間がんばり通すとは断言しません。けれど部にいる間は、精一杯がんばりたいと思っています。諸先輩方、今後ともよろしくお願いします。

友

工学部　二年　山城邦敬

大学入学当初、純粋な希望に満ちた、あのころの瞳は、今、霧がかかったかのように曇っている。あの勉学だけにはげもうと燃えていた昔が何故かバカげていたように思える。

今年も、去年僕たちが入学したように一年生が入って来たが、その一年を僕が勧誘すると、ある人が「講義がありますから。」とまじめな顔をして言って逃げて行った。その時僕は、この一年生が満足し、ためになるような講義が行なわれるかどうか、そして、一ヶ月たった後も講義を聞くために出席しているかどうか大変疑問に思い、この一年生がどこかの部に入ってほしいと願わずにはいられない。そうでなければ、この大学で一年生が得るものはかなり少ないものであろうし、面白くもないだろう。大学に学生をとどめているものは、学生課でも、講義でもない友であると思っている。僕は、友を得る手段の一つとして、書道部に入ったような気がする。書道部を選んだのは誤まりではなかったが、書道部に一年間いて、どれだけ自分がどのように変わったか分らない。本当は全く変わっていないのかも知れない。ただこの一年間、書道部を通じて、福大のみならず、いろいろな人と知り合えて有意義にすごせたということであろう。

今後、僕は友を大切にし、自分を隠さずに本音で話し合える本当の友を沢山作り、大学生活をより充実した悔いのないものにするように努力するだけである。

（中学時代のある文集より）

法学部　四年　鶴田定司

大切にした物

ランドセルは、入学して何度も修理してもらい卒業するまでしていった。一度はどうしても友達の様に近頃流行の手さげカバンを下げて行きたかったので母にねだったら花柄の買物袋をくれた。しぶしぶその袋を下げて学校に行くと友達から冷やかされた。その後、ランドセル以外の物を下げて行く事はなかった。

小さな道徳

小学三年のある夏の昼過ぎ僕は、道端をとぼとぼと歩いていると、草むらの中に十円玉を発見した。「やった！これでアイスキャンディーが

食える。」とニヤニヤしながら家に帰った。そこで庭にいた父に、「おとうさん、ほら十円玉の道におっちゃえとった。もうけた。」すると父のげんこつが飛び、そして父は言った。「あった所に戻して来い。」と。頑張った事

僕の近所に久喜君という友達がいた。小学四年の冬が近づいてきたある日、田んぼで遊んでいた僕達は、ゴムぞうりを見ながら約束をした。「寒くなってきたばってん、今日から一年間、卒業式と入学式の日以外はくつ下をはかんごっこしょうや。」と。そして霜の降りている日も雪の日もくつ下をはかずに頑張りぬいた……。

事ある度に私の脳裏を横切る物は、これらのように幼い時の印象深い出来事である。そして幼い頃の思い出が少なからず教訓として残り又、心の支えとなっている。福大に入学してから日記を付けること、千ページを越したが、喜怒哀楽に富んだ出来事を提供してくれた書道部に深く感謝し、この書道部は私の人生の道案内の一つとなると考える。

男と女

薬学部　三年　天野仁子

神様はどうしてこの世の中に男と女という二種類の人間しか造らなかったのかしら。もっと、もっと、ちがう種類の人間を造ってくださったら世の中、楽しくなったのではないかなんてバカなことを時々、考えたりするのです。

私は、一応性別女性ですけれど、今度生まれてくる時は、男性として生まれてきたいな。だって今の社会、まだまだ男の人の方が得していることって多いんですもの……。もしも私が男だったら、今よりももっと自由に、もっと強く、もっと気ままに生きていけたような気がするから。自分が女である故に、制限されていることって案外たくさんあるんですものね。幼い頃は、本当に男になることに憧れたものでした。オテンバな私に「もっと女の子らしくしなさい……かわいい女の子になりなさい。」と耳にたこができるくらい、母さんがくどくどとあきる事なく言うのでその反発からだったのかもしれないけれど。

今だって、母さんばかりか父さんまでが「女らしくしなさい。」って言うけれど、私には「女らしい」ってことがよくわからないのです。たまたま私がひらひら服を着ていた時に、高校の同級生にバッタリ会ったら「あんた、女らしくなったなぁー。」なんて言われてすごく複雑な気持ちになったのです。きっと彼は『馬子にも衣裳』って言いたかったのでしょうけれどね……。綺麗に着飾って、料理洗濯、掃除をこなして、男の人に寄り添っていけば女らしいというのかしら？素直で優しくて思いやりをもてば、それで女らしいのかしら？やっぱりよくわからない。ただ父さんが「お前は自分の顔よりも心を磨け！」と皮肉たっぷりに言うから、そんなことが大切かもしれないと思うけれど……。

さて、我、書道部をみてみると、まだまだ封建制的な部分が残っているようですね。男性諸君は、女の子は何にもできなくて、何にもしていないと頭から決めつけて、認めてくれないことってあるでしょう。でもやっぱりサークル部員として必要欠くべからざるものだと思います。例えば、夏季合宿の後片づけ、七隈祭のバザー、ソフトボールのおにぎり

作りなど、女の子が光って見える時ってあるでしょう。もしかしたら、そんな風に光って見える時に、「女らしさ」を感じるものかもしれませんね。

人間って、男にしかできないこと、女にしかできないことってあるんだから、その部分でお互いに、一生懸命、切磋琢磨して、仲よく生きていきたいと思うんです。

サークル活動へ
学而時習之、不亦説乎。有明自遠方来、不亦説乎。

経済学部　四年　重松裕人

人として、人と対等につき合いをすることは、とても難しいことだと思います。そして、最も大切なことだと考える様になりました。「人間は社会的動物である。」という言葉をよく耳にします。確かに、人は独りでは生きて行けないものだと思います。それ程に、強い人はいないのではないでしょうか。そしてまた、人が力を合わせれば、プラスα（アルファ）の力が発揮できるものだということは周知のことでしょう。

「學而時習之、不亦説乎。有朋自遠方來、不亦説乎。」という「学問の楽しみ」について説かれた孔子の言葉があります。つまり、「学びて時にこれを習う、亦た説ばしからずや。朋あり、遠方より来たる、亦た楽しからずや。」と解せられます。

この戒は、サークル活動にも生かせるものではないでしょうか。こうして集まって来た人達なのだから、その活動が有意義に前進することはもちろん、それ以外にもいろいろな接触の機会があることでしょう。ですから、その対人関係というものは、自ずと「楽しくもあり、難しくもあり。」といったいろいろな感情が入りみだれ、ぶつかり合うものです。しかし、そのぶつかり合う感情を持ったものは、やはり人間でありロボットなどではありません。ですから、話し合って言葉で分かり合えることは良い事だと思います。そしてまた、他人の心を解することの出来る心を養えるサークル活動であったなら、さらに良いことだと思います。

私の大学生活

法学部　一年　松本真士

私がこの福岡大学に入学して、最初に感じたことは大学とは何と自由なところだろうということである。例えば、講義に出席することも自由であるし、出席してもほとんどの学生は真剣にうけていない。講義だけではなく、その他の生活のあらゆる面で高校時代の生活からは考えられないような自由がある。しかし、この反面、社会における自分自身の責任というものもそれだけ大きくなったし、自由ということにあまえて何もしないで大学生活を送ったのでは、一生後悔するのではないかと思った。何か自由な中にもけじめが必要であるし、厳しさがなくてはならない。それにはサークルに入って活動するのがいいのではと書道部に入部したのだが、私が考えていたほど大学でのサークル活動はなまやさしいものではなかった。書道部など初めての私には、練習は本当につらく、途中で筆を投げだしたいような気にもなる。しかし、練習が終った後の充実感はなんともいえないものである。私は、この同じ充実感によって

結ばれる先輩方や同輩たちとの間の信頼感、友情を大学生活において大きなプラスとしたい。そして、今のこの気持を大切にして貴重な青春時代を有意義におくりたいと思う。

希望を持つこと・絶望すること

理学部　三年　松藤　美津子

自分に絶望することこそ、精神の確立しはじめた最も端的な証拠である。ということを聞いたことがあります。なるほど、自発的にものを考えようとしないかぎり、悩みや迷いの起こるはずもなく、また小さな自己に満足し、なんの努力も考え事もしない人には、絶望も起こり得ないでしょう。人生のさまざまな事に出会うたびに、美しい夢を、大きな希望を持った人ほど失望も大きいでしょう。しかし、自己に絶望し、人生に絶望したからといって人生を全面的に否定するのはあまりにも個人的ではないかしら、という気がします。私達人間には、人生に対しあまりに大きなことを望み、自分の努力を忘れて、大きな期待だけをかける虫の良さがあります。そして、その虫の良さのために欺かれ、人生に失望する人が多いのではないでしょうか。人生は無限に広いのです。私達の知らないどれほど多くの真理が、美が、あるいは人間がかくれているかわからないのです。それを放棄してはもったいないと思います。やはり大きな希望を持ってぶつかっていかなければならないと思います。そうしていく中で、いろんな形の絶望感を味わい、傷つき、その苦しみの中から、私達は次第に自己の視野の広がっていくのを感じ、柔軟で個性的な精神を持つことができるようになるのだと思います。

人生は運命であるように、人生は希望である。運命的な存在である人間にとって生きていることは希望を持っていることである。

「流　れ」

法学部　二　年　柴　田　直　人

入部して早一年が過ぎている。思えば団体行動の難しさ。素晴らしさそして「考える」ということ。この他にも随分と多くのことを学ぶことができた。しかし多くの問題も未解決のままその辺に漂っている。僕には、僕等には一年生という充分な時間があった。

しかし、もはや存在しない時間だ。はたして、この二年という時間でどれだけの問題を解決し得るだろう。二年という時間は激流といっていいだろう。谷あいからの小さな流れであった一年生という小川から激しき流れに変わりはじめている大河にそそぐ為に。

心してかからなければ激流にもまれ岩に砕かれ自分という小船を目的地にたどりつかせることができなくなるかもしれない。たどりつくには、精進する心という推進力が必要だ。

ところで、「時」というものには勢いというものある意識をもっているのかもしれないと思う彼の人は言う「歴史が、時が、自分を必要とするまで地に潜む」と又、此の人は言う「時の流れが速度を速めている、我々の歩調が合わねば我等は滅ぶのみ」と。行動が時の意志にそぐわない時、彼らは滅び失却した。これは僕らにもあてはまることではないだ

ろうか。サークル内の時の流れ、これはサークル員が作っているものだろう。その意志を尊重しない時、サークルはその方向性を狂わせ崩壊してしまう。二年生という一学年の中においては、時代が徐々に近づいてくると思えば、勢いあせりが出はじめる。それは何処か、自信がないから、信頼しあってる裏でまで擬心が働くから。周囲の者が光り出すことを心から祝福してやれるようにならなければ、くもっている部分を磨いてやる意志がなければ、流れに乗ることは出来ないのではないだろうか。

春ノ日ノ油山ニテ

経済学部　四年　浦　泰　介

人は皆、他人よりすぐれたいと思っているし、又すぐれていると思いがちである。何が、どのくらい、又どうしてその様な事が言えるのでしょうか。人間は、その人自身の個性を生かすべきところで生かすべき力を発揮するならば、そうたいして違いはできないものです。

人生は長いのです。発揮する時は何度も訪れるものです。その時、力一杯個性を出しきるのです。名残りなんて持たずに！だから、私達はその力をつかみ、そして発揮する為にも、もっともっと自分を叩いて、叩いて、叩き込む事！。そして、苦しさにじっと堪える精神力をつけ、力一杯努力するのです。そんな人生、できるでしょうか。人生は自由です。でも苦しさに勝つ意気込みと精神力をもち、生き続けたいと思います。

There is no knowing what way happen.

目標のない人生

法学部　一年　諫　山　聡

今の自分に目標があるかと聞かれても、如何に答えようか迷ってしまう。困ったもんである。入学する前までは司法試験を受けようなど、高い、高い、高過ぎるくらいの目標を持っていたようであるが、現在の小生には……。

どうも今頃、何か気が向かないことがよくあって、自分でどうしたのだろうかと思い悩んでいた。今日、この原稿を書かなくてはいけないので、机に向かってもなかなか、筆が先に動かないので、先日買った「月刊平凡」を見ていたら、これからデビューする人達の顔写真があった。それらには、暗い影というものがなく、何か輝かしいものを感じた。これから芸能人になって行くんだという”目標“を持って……。

スターになることは容易いことではない。それを知りながらデビューするのだから、それ相応の覚悟はあると思う。失敗しても、何もそれだけが人生ではないし、第二の人生を自分で見つければいいし。

ところが今の自分には、人生において失敗するどころか、第一の人生すらない生活を送っている。去年の小生には大学合格という目標があって充実していた（結局、途中挫折してしまったが）、なのに今は、その日、その日を、惰性で生きている。何の計画も立てず、何の目標も持たず。……目標のない人生がこんなにもつまらないものかと、小生は今更ながら考えさせられてしまった。これから4年間、自分なりに目標を立てて生きて行こうと思う。大学生活に悔いが残らないように。

めざせ国家試験！（あえて、何試験かは書きませんでした。）

男とは

経済学部　二年　満生憲親

以前、ある先輩から問われた。「お前にとって男とは。」と。私はとっさに「強い信念をもって突き進むもの。」と答えた。はっきりした答えというものはないとは思うが、これも誤りではないと思う。しかし、こうは答えたものの果たして、現在の自分を見て自分が答えた様な男であろうか。ただ何の目的も持たず漠然にも時を過ごしているのではないだろうか。今でもこの「男」という文字が私にとって大きな課題である。自分の考える範囲で答えるなら、男とは、人に弱さを見せるものではないと思う。人に不安を抱かせるだけだから。そしてただ人の歩いている道を同じ様に歩いていくのではなくて、人の流れに逆って「己の力」で新しい道を作っていくものだ。それから自分のやった事には何事にも自信と根性を持つことだ。自分のした事にびくついて何とする。男が自信と根性を失くしたら、それこそ中身のない、味気のないピーマンの様な男になってしまう。男の自信こそ魅力であるし、又個性であるとも思う。バイタリティーあふれた男には魅力を感じるし……。もっともっと自分を見つめ直して中身の濃い魅力ある男になろう。今でも心に強く残っている言葉がある。それは「男なら自己の限界に挑戦しろ。」である。自分はこの言葉が好きだ。これこそ男の真髄であると思うし、男であるからこそできることだと思う。挑戦して負けてもいいのだ。挑戦することによって「己」に磨きがかかるし、いつだって輝いているものだと思う。この言葉を心に刻み、目標としてこれからも何事にも恐れずぶつかっていこう。精進あるのみ。根性、根性、ド根性！

風は蕭蕭として　易水寒し
壮士一度去って　復た還らす

司馬遷「史記」

福大書道部に入って

商学部　一年　田原信秀

こんにちは、自分は今度書道部に入った田原です。自分と同じ名字のやつがテレビでさわがれているようですが、ちょっと違うんです。彼の場合は、たはら。自分の場合は、たばる、なんですよ。と最初から脱線したようですが、本文に戻ります。

自分と書道とのかかわりあいは、小学校二年の時からで、それ以来高校二年の時までで、実に十年あまりの間やっていたんです。その間色んなことがありました。今思い出しても、なつかしいことばかりです。先生というのが若い女の人で、よく可愛がってもらいました。どっちかというと先生というよりも、やさしいおねえさんという感じでした。その中で、市や県の大会で、硬筆・毛筆共に入選や特選をしていましたし、日常使う字なども、結構うまく書いていました。高校では陸上競技をやるかたわらに書道部に入り、自分なりに頑張ってきたつもりです。

以上の様な経歴で、福大に来て書道部に入ったわけですが、そもそも

何故書道部に入ったのかというと、自分は、自宅（唐津）から通っているために、運動部には入りにくいため　文化部に入ろうと考えていたわけです。それじゃずっとやっていた書道を生かそうと思って、書道部に入ったわけです。実際に入って見て感じた事は、練習が高校の時やっていたのとは数段厳しいということでした。それでも、練習の時以外は先輩方との楽しいおつきあい。でも本心言っていやだなぁと思うこともあります。しかし、それを乗り越えて、書道面、生活面、考え方などのあらゆる面にわたって、一歩一歩成長していきたいと思っています。諸先輩方、これからはりきって頑張りますので、よろしくお願いします。

自然の中で

経済学部　三年　椛　島　文　子

ちっちゃな女の子らが、れんげ、菜の花が咲きみだれている中で花輪をつくり、お互いの首に下げ合って戯れている。そうして、疲れ果てて青い空、草花、暖かい日だまりの中で眠りこけていた。それが幼き頃の私。完全に自然と一体となっていたあの頃。

今は、本当にツツジがきれい。

あの中に立って、空と花と自然と一体になれたら。

今も、目をとじたら　そこに立っている自分を思い浮かべられるのに。

一度も　やったことがない。

なぜ。今のおまえは、あまりにも日常茶飯事な事に追われすぎているから。

目の前の小さな事に追われ、ゆとりを失っているから。繰り返し、繰り返し、こだまする。

ほんの一瞬でも、あの中に立ってみたらいいのに。そうすれば、今のおまえの悩みなんて、本当にささいな事で、おまえというちっちゃな人間が　なんて、つまらなく、小さなものに思えるだろうに。

自然に目を向けなさい。

今は春。

ツツジがあんなに　きれい。

木々は　生き生きして、自然は、生命感に満ちている。

そんな中で　こせこせした人間は、似合わないから。

この一年僕は何をしたか

経済学部　二年　小田部　一二三典

説明会があった。強化練習があった。連盟展があった。学術文化発表週間があった。夏季合宿があった。錬成会があった。……

この一年を振り返ってみると、さまざまな行事が行なわれたものだ。あっという間に一年が過ぎ、もう二年目に入っていた。そして今年は、去年自分がそうであったように後輩を迎えるのである。一年の頃は二年生以上の方々が妙に遠くに見えたものである。この一年全てが経験だった。全てが冒険であった。しかし、それがどれだけ自分自身のものになっているかは、自分自身疑問である。何も考えずに、がむしゃらに先輩にされるがままに動いた自分自身が浮んでくるだけだ。しかし、それは

いやな思い出ではない。何かはつらつとした新鮮な感じのする思い出である。

時には、先輩のするそんな事がいやでいやでたまらなかった。そんなささいな事でもうこんな書道部やめてしまいたいと何度考えた事か…。しかし、今考えてみると皆美しい思い出だ。メルヘンじゃー。

これからは、そんな考えてみれば矛盾している思い出を一年生に与える立場に立つのだ。自分は先輩として後輩に何を残してやれるだろうか。それは自分自身の問題でもあり、二年、または、先輩全体の問題でもあるのであると僕は思う。今まで学んできたそして、やったことを基にしてやっていかなければならない。それだけのことを本当に自分は学んできたか、やってきたか、それが自分にとって今、一番考え直すべきところであると考える。こんなことを後輩に考えさせないようにすることが自分に荷せられた十字架である。

意志の疎通について

人文学部　四年　三小田　佳　子

人の感覚は一人一人異なっていて同じ物事でも人それぞれ受け止め方が違います。例えば私が「おもしろい」とか「美しい」とか感じたことも他の人が感じる「おもしろさ」や「美しさ」などはその基準や価値観の違いでその程度が異なってくると思います。自分がその人のために良かれと思ってしたことがその人にとっては不愉快なこと、おせっかいと感じられるかもしれません。

思っていることを伝えるための道具である言葉でさえ人によって受け止め方が異なりかえって思っていることが誤って伝わり誤解が生ずることがあります。誤解を少なくするためにはなるべく相手に自分の思っていることが伝わりやすい言葉で気持ちを表現するしかありません。別に多くを語らずともお互いの気持ちが何となくわかるという間柄ではその必要もないかも知れません。また自分の思っていることを理解してほしいと願うあまりいろんな言葉を用いすぎて何を伝えたかったのかわからなくなってしまったり、結果として自分の言いたいことを相手に押しつけたにすぎなかったということもあります。しかし、どうせ誤解されるだろうなどと思ったらその時点で自分は人の心とふれ合うことを諦めたことになります。誤解も考えようによっては、そう悪いものではないかもしれません。誤解が生じたとき人はそれをなるべく解決しようとして思い悩み、その結果その人の考えに幅ができるかもしれません。要はその人にやる気があるかないかの問題だと思います。

自分の思っていることを伝えることを諦めず、誤解されないかと恐れず人と接し、もし自分が相手の言葉に不愉快さを感じたら、そう思った自分の受け止め方に誤解はなかったかもう一度素直に相手の伝えようとしていることを聞き直すゆとり、柔軟な姿勢を持っていたいと思います。自分のことを誤解されたくないならまず自分が人を誤解したままになっていないかと考えたいものです。

一年間が経って思う事

商学部　二年　高橋福代

大学に入学して一年が経ち、ある程度慣れたけれど、私の心はなじめなかった気がする。今でも、家にいたいと思うけれどしかたがない事である。本当に大学に入ってつくづく感じるのは、故郷はいいなあと思った。暇さえあれば、家にかえりたいと強く思う。

さて、この一年間私は何を考え、何をしてきたのだろうと思う。どう考えても、あまり思い出せない。それで、今から何をしていったらいいのか全くわからないし、はっきり言って何もしたくない。自分自身が全くわからないのである。でも、すなおに自分自身を見直せば、なんとかなるのではないかと思う。

次にクラブの事の思い出としては、もっと練習をすればよかったと思う。作品をつくるにあたっては、最後になってくじけてしまった。こんな繰り返しで、何を得たのかと思うと悲しくてたまらない。これから暇をみつけて練習していきたい。

本当に一年間というのは、アッというまに過ぎたけれど、過去をふり返らず、先の事をマイペースでやって行こうと思う。

居酒屋　拓　郎
女性アルバイト募集！
時給　700円
西区片江　TEL801－1258
営業時間　AM3:00～PM3:00

禅やヨガの初心者
バイオフィードバックは自分の心の中で何が生じているかを音・色・グラフで明確に表現しますから、容易に進歩を早めることができます。

自律訓練とバイオフィードバック
自律健康センター
80年代の生活の知恵!!
リラックスで自然治ゆ力は高まります
集中力・記憶力
積極性・やる気
学習意欲
創造性
協調性
向上
解消
不安感・緊張感
無気力・けん怠感
不眠・疲労感
対人緊張・アガリ
イライラ・アセリ
一人で出来る家庭用電子訓練器新発売！
お問合せは ☎(092) 714-3248
（トレーニングルーム）　福岡市中央区天神2－3－10
西鉄福岡駅より3分（親切な個人指導）　☎(092)714-3048

大学生活のはじめに思うこと

人文学部　一年　貞　苅　静　香

いよいよ大学生としての生活がはじまった。約一ヵ月過ごしてみて今一番思うことは、自分でやるということがこんなにもきびしかったのかということだ。授業にしてもとにかく、自分で責任をもってやらなくてはだれもやってはくれない。時間割作成、教室一覧表などとにかくボケッとしていたら知らずじまいで一人とり残されてしまう。授業に限らず友達を作ることもまた、中学高校の生活と違って与えられたクラスの中で友達をつくるというよりも、自分からすすんでいろいろなサークルに入部して、その中で自分の個性を生かし、また他の人たちの様々な個性に会うことでその中から人間的なつながり（友情や恋愛など）を結んでいくのだなと思った。とにかく、大学というところは何事をするのも自主性、積極性にまかされているようだ。今までは、先生のおっしゃること、親の意見等を聞いて、それに従っていればおもしろ味もないかわりに責任を問われることもなく、無難に過ごせた。けれど、これからはそうでない。ボヤボヤしていると四年間を何も得ることなく無意味に過ごしてしまうことになるかもしれない。とにかくぶつかって行かなくては。私は書道部に入部したことで、積極性の第一歩を踏み出した。たいへんなきびしさがここはある。それゆえ、私の不安度も非常に大なのだ。けれど、きびしさがあるからこそ、あのすてきななごやかさが生まれるのだろう。とにかく私は福岡大学の学生として、また書道部の一員として不安と期待の大学生活を踏み出した。決して楽ちんな学生生活ではなかろうが、いろいろな人々に会い、いろいろな出来事にぶつかってゆく中で、いろいろなことを考えていく学生生活にしたいと思っている。考える事こそが、大学生に与えられた特権であり義務であると思うから。

ある春の日に

工学部　二年　西　口　公　恵

書道を学ぶ者であれば当然の事ではあるが、文字を書くにおいてバランスというものが、大変重要なポイントをなす。それとともに力強さ、個々の文字すべてが生きているということが必要なのではないだろうか。

何故、このようなことを冒頭に述べたかというと、一年間クラブを続けてきて、またこれから続けるにつれ、クラブ内の人間関係というものが意外に難しいということを最近考えたためである。

人間関係というものは書の道にも通ずるのではないだろうか。即ち、自らのことばかり考えるバランスの偏りを無くし、他の事情を考慮する。クラブにおいても一人一人が生き生きとしたつき合い方を考える、ということである。そして、それとともに文字の中で一本一本の線が大切であり、他の文字のために貢献する。つまりクラブにとって一人一人は大切であり、一人一人はクラブに貢献する。貢献といってもそれほど大したものでなくても良いのである。要は個々の気持ちであろう。

ここに思い至って、自らを振り返る。誰のためでもなく、クラブのためでもなく、自らのためにクラブを行っていると思うことにし、そして自らの過ちをバネとして今年一年、より有意義なものとするべきである

と考えてみた。クラブをやめたいと思ったある春の日のことである。

「私はこれだけの人間だ。背伸びしてまで、いつわってまで、飾ってまで生きようとは思わない。私はこれだけの人間、愛せたら愛してくれ。」

ないと思う。

「歩　幅」

経済学部　三年　濱　田　清　治

「天上天下唯我独尊」これは皆さん知っての通り、釈尊の言った言葉この広い広い世の中で、「ただ我一人」ということは尊いんだということだそうだ。

近頃、私もそうじゃないかと時々思うことがある。この「天上天下唯我独尊」とは、オリジナルには真似のできない良さがあるということだと思っている。たとえば、一人一人には私には私なりのそれぞれオリジナルの、互いに真似のできない歩幅をもっている。この歩幅というもの昔の話しに「ウサギとカメ」の話しがあるでしょう。カメが最後は勝ちますけど、これはカメが、みずからの歩幅で、ただひたすら、ウサギはどうであれゴールまで歩きとおしたからじゃないかと思う。ようするに人が速いからといって、みずからのペースを乱しては息が切れてしまう。これでは、納得いく生き方ができるだろうか。自己の歩幅いいかえれば自己発見、自分というものを知りつくしてしまわなければならないということだと思う。そうすることにより、ゆとりと豊かさ、やすらぎそんなものが得られるんじゃないかと思う。たぶんこれからの社会は今以上に人間関係も複雑になっていくのではないかと思う。そのためにも、時間的、空間的、存在的にもかけがえのないこの命を精一杯に一点一画に心をこめ、自分自身のオリジナルをもって生きぬいていかなければなら

一抹の光

薬学部　四年　藤　原　弘　美

いつものように、いつもの道を歩いていると――銀河系宇宙のほんのかたすみの、とるに足らない小さな惑星に、ひしめきあって、もっと小さな私達は、生きているんだ――と、そんな事をふと考えたりします。そうすると、今悩んでいた事は、もっともっと、とるに足らない些細な事のような気がしてきて、そして頭の中の全ての雑念が、いつのまにか消えさってしまっていて、とっても寛大になります。そのまま、この青くて広い空をどこまでも飛んで行けそうな、そんな大きくて、まあるい風船みたいな気持です。なんとなく嬉しくって、目にするもの全てに感動してしまいます。

でも、気がつくと、いつのまにかその風船が見えなくなって、またいつもの私が、世間の雑事に気をとられながら、歩いています。

そんな時、もう一度と思って、意図的に、再現フィルムをまわそうとしても無駄なんです。ますます多くの苦悩に悩まされて、立往生してしまいます。

それでも、やっぱり歩いて行きます。

そうすると、思いがけず、ふと気がついた時、またもや、ほんの一瞬の気まぐれみたいな出来事なんだけど、とってもやさしい私がそこにいるんです。

旅と人生

経済学部　一年　石橋正隆

「旅において出会うのは常に自分自身である」と三木清は『人生論ノート』の中で言っている。つまり、彼に言わせれば、「団体旅行において出会うのは、常に日程表においかけられている自分自身である」ということになろうか。

私なりに旅と旅行についての独断的定義を言わせてもらえればこうである。

▽より多くの人を引き寄せ、より多くの金をまきあげる目的で仕掛けられたワナにはまるのが旅行で、それを避けて行くのが旅だ。▽旅行は管理社会の縮図であり、旅は管理社会からの脱出である。▽他人の経験をなぞるのが旅行で、未知のものを見つけるのが旅である。

私はまた自分に言いきかせている定義「旅は人生そのものである。」というのは『人生論ノート』に教えられたことである。

人は生れてから死ぬまで旅を続けている。時には列車に乗り、時には自分の足で歩き、ある日人にめぐり会い、あくる日には別れ、新しきものに驚き、古きものに涙を流す。人生は旅の繰り返しなのである。

私の大学生活は旅の一瞬間にすぎない。私は旅の途中で書道部に出会った。この書道部が私に与えてくれるものはいったい何だろうか。しかし、たった一つ言えることは、書道部を通じて自分自身に出会うことができるということであろう。

大学生活二年目を迎えて

法学部　二年　梅崎孝夫

下宿生活にもようやく慣れ、書道部にもやっとなじみ始めた今日この頃です。

大学生活二年目を原点に立ち返り独立した人間の自我を獲得するための助走期間にしたいものです。

この一年間、高校時代には経験もしなかったようなクラブ活動の厳しさ、楽しさを味わい、さまざまな人間とも接してきました。その中で異質なものに心を開いてそれを受け入れ、理解するのは容易なことではなく、それには柔軟な頭脳が必要であるということ、また異質な人を愛せるか否かは、その人物が大人になるための一つの試金石でもあるのではないかということを切に感じました。そして、個々の人間のもつ不完全さは色々あるにしても、人間がその不完全さを克服しようと努力することに意義があるのではないでしょうか。

親切と感じさせないような、そして口では言い表わさなくても奥深い心をよみとる、とってくれる人間になるために意欲と情熱をもって、今から本当に大学というものにぶつかっていこうと考えています。

しかし、自分に対する第一の責任者は自分だということだけは忘れずに、

この二年目をステップにして自分の真価を賭けることができたら最高です。

あなたは教えてくれた
小さな物語でも
自分の人生の中では
誰もが皆主人公
時折思い出の中で
あなたは支えてください
私の人生の中では
私が主人公だと

〃回　想〃

経済学部　四年　酒　井　昌　弘

この福大書道部機関誌〝荒鷲〟が、私の学生生活の最後の投稿となるであろう。そこで、大学生活三年間、私を心身共に成長させてくれた場所について、思い出すままにペンを走らせてみようと思う。

我が家編

其の一は、私が生まれてこのかた二十一年間、食をとり住み慣れた家族のいる、我が家である。中でも私の部屋は、一人になって物思いにふけった場所なのである。というのは、正直いって私は、自宅生でありながら、あまり家に帰る事もなく、たまに帰ると、部屋の中は、ほこりがかぶっており、まさに古人が、俗世間から我が身を断ち切り、詩を詠んだ如く、閑散としていて静寂に満ちていたからであろう。

部室編

其の二が、書道部の部室である。ここでは、先輩との出合い、後輩との出会い・語らい、また役員時代は、学而会館の閉館間際迄、サークルの事を話し合った事など、様々な思い出が詰まっているのである。だから入部当初から、今でもそうであるが、大学に行くと、何かを求めて部室に足が向いているのである。そういった意味では、人との出合い、語らいの大切さを部室で知ったのである。

下宿編

其の三に下宿である。先述の如く、あまり帰宅せず、下宿にひたりこんだのである。一年の頃は先輩の下宿、二年の時には同輩の下宿、三年になれば後輩の下宿へと泊り歩いたのである。今思い返すと、下宿巡りをした活動が、私自身をより大きく変身させた様な気がする。というのは、いろいろな人間と腹を割って話す中で、自分の考え方、見方に幅ができたからである。

以上三つの場所について書いてきたが、これはあくまでも、私個人の生き方であって、人それぞれ色々な生き方はあると思うが、そんな中で感じた事を、後輩諸君に言っておきたい。第一に、「全ての事に対して貪欲であれ、これと決めた事は、自分のもてる全ての力を注ぎ込め。」第二に、「自分が受けたものは、全て与えよ。」ということである。

私はこの二点を自己の確立を為す上で重要なものであると考えている。これからの残り少ない学生生活も、この事を肝に命じて頑張ってゆく。

後輩諸君よ、一諸に頑張ろうぜ。

日本的考え方とは

法学部　二年　平　田　経　子

「現在のご職業は。」と聞かれる時、私達は「大学生です。」と答えます。そう答えると学問をしていますという様な響きがして、「ほほう。」答えられるかもしれません。しかし、現在では馬鹿の代名詞みたいに思われている様な気もしないではありません。大学といっても上は東大から下は○大まで種々雑多ですが、その天下の東大が馬鹿になって行きつつあるのですから、他大学のレベルダウンは当然の事と言えば当然の事でしょう。

ところで、これはひょっとすると福岡周辺だけかもしれませんが、学生の間での理論となりますと、いかにも利巧そうに難しい言葉を並べ立て、加えて相手にもわからないような外来語を下手くそな発音で真面目に話します。相手はわかったようなわからないようなことになり、その場を誤魔化されてしまいます。その偉そうな人は一層、偉そうな人のように祭り上げられてしまうのです。しかし、それを簡単な言葉に置き換えてみますと大した事は言ってはいません。実際そういう大学　が、自分たちの回りには増えている様に思えるのです。（ひょっとしたら私もそういう目で見られているかもしれません。）そういうのは、利巧そうな馬鹿です。私の独断で述べさせていただきます利巧な人とは、実際の力もしくは、それ以上をひけらかさない人で、いざという時にその力を思う存分発揮する人です。その昔、宿命のライバルとして有名な清少納言と紫式部にしてもそうでしょう。清少納言は、天真爛漫な人だったかもしれませんが、私は謙虚な紫式部の方が好きです。西洋人に言わせますと素直ではないとか、東洋的思想は理解しにくいといわれるかもしれません。しかし、現在の私達は　あまりに西洋文明・思想を受け入れすぎたために東洋思想・特に日本的考え方を忘れ去ってしまっているのではないでしょうか。

わ・た・し

経済学部　一年　市　川　初　江

只今午前零時、外は真暗である。私はなんとなく今日は気分がよい。気分がよいというと、いつもはなんだか病気かなんかのような気がするがそうではない。ただ何となく気分がよいのである。例えば、お酒に酔った時のように、時々私は至極楽しい気分になるのである。変な人間だと自分でも思う。しかしそれ以外は、ごく普通の平凡な人間だと思うが人はそう思わないらしい。少なくとも今日まで私が親しくしてきた人は私のことを、変った人間だという。そのくせどこが変っているか、全々教えてくれない。まわりで私のことを、変った人間だと思いたいだけじゃないのか、と私は思う。まあ人がどう思おうと、たいして気にもしないが・・・・

私は少々、イカレたところもある。「どんなところがイカレているのか？」って、それは秘密である。（私としては書道部のみなさんには知

られたくない。）そうそう、その上私はたいへん気が変りやすい。朝と昼では言っている事がまったく違うなんて事はしょっちゅうだ。例えば書道部に入った時もそうだった。朝はCPAに入ると言っていたのだ。それなのに、その日の午後には、しっかり書道部に入ってしまった。自分でもあきれる。今、私は、二回練習に出てみて、ウァーと思っている。「ウァー」の意味は、勝手に想像してほしい。書道部の居心地は、至極よろしいので、そこの所誤解のないように。それに私は書道は好きなのである。書道をしている時は虚心担懐である。これは私にとっては、たいへんめずらしいのである。私は普通何をしていても、すぐ他の事に気がとられるのである。まあ何はともあれ、入部したからにはガンバロー。これから先どうなることやら、という気はするが、とにかくやるしかない。と今は思っている。

だらだらと、つまらぬ事を書いてしまったが、ここで止めにしよう。それでは・・・

大　地

経済学部　二年　江里口　吉　光

「はてしない大空と広い大地のその中で、いつの日か幸せを自分の腕でつかむよう。」こういう詩がありました。荒れ狂う大空のその上には、いつもと変わらぬすばらしい青空が広がっている。人間は変わろうとも、大地は我々の生活を支え、厳然として存在するのです。

一年間書道部で過ごしてみて、はたして自分に身についたものは何なのであろうか、と考えてみる。確かに書技面では上達もし、友も沢山できた。しかし、何かが足りないのである。自分がやったことと言えば、部の活動にだらだらと時間を多量に使っただけで、他のものに目を向ける時間をもなくしてしまっていたのだ。時間というのは有限だ。今この時にも我々の青春の貴重な時間は過ぎ去って行くのです。なんと時間の使い方が下手だったことだろうか。部の生活に流され、習慣に流され、社会に流された。受身の立場ばかりとり、自分から時を刻むことはなかった。こういう生活を大学四年間続けたとしても幸せなどつかめるはずがない。時を大切に使うということは、すべてのことに真剣に取り組むことである。

また、あまりに物事を一方の方から見ることが多すぎた。もっと広い視野をもって一つの信念のもてる者にならなくては。

ひとたび世界に目を向けてみると、自分には今現在が、これから先の数世紀の運命を決めてしまう重要な時のような気がする。今のままの資源を食い荒らすだけの社会構造では、いつかは我々の生活は崩壊するに決っている。これからの社会を支えていかなければならない我々が、今のような怠惰な生活を送っていてはならない。もっと広い視野にたち、あの母なる大地のような強い意志をもって努力していくつもりだ。

私の人生感

工学部　四年　中　村　和　美

この頃、ふと、考えるんです。そして、不安になるんです。

なぜって、私、来年は社会人ですものね。

これから、何を為すべきか、全くわからない私。手さぐりで、探し回っているけど……

微かな光を頼りに進んではいるけど。その光がふと消えると、暗闇の中で、右往左往しているだろうな。こんな時、自分に、自信さえあれば、目標さえあれば、人に惑わされることなく、歩み続けることができるだろうな。

こんな事を考えながら、一日一日が過ぎ去っていく、今日この頃。

周囲は陽気のせいか、きらきら輝いて見える。一人無気力のままで…。

こんな時、見つけたんです。夢中になれるもの。何でもいいんです。たとえ、それが書道でも、友達でも、ちっぽけな事でも。私にとっては、数倍も大きな事なんだから。今までの自分に、生気が取り戻せたんです。

やっぱり、人間って、小さな生き物なんだなあ。たった一片の事なのに、それで、死から生へと変わるんだから。〃生きる〃という事は難しい。

私が思うに、人生という長いレースは、常に何か熱中する物が必要だと思う。たまには一息つく暇も大切だけど。

私もあと一年、やり残した事が無いぐらい突っ走ってみようと思います。

心の中を

経済学部　二年　中村純一郎

「俺の青春は雲ひとつない空のように、まだ青く晴れわたっている。」

（バルザック）

俺はこの名言がどこか心の奥でひびいているように感じる。青春もそうだけど心の中が、こんなに晴れわたったらどんなにいいだろう。壮大な青空、それは澄みきってとても清らかだし、美しい。これはやはり何かに賭けるものがある人が、それに熱中している時にピッタリくるのではなかろうか。何かに賭けている人の目は輝いていて美しいし、熱中している人の心は、いつも、はつらつしてきれいだし。

「青春」それは今の俺たちに与えられているもの、そんな俺の青春時代はどこまで晴れわたっているのだろう。時々、あの頃（中学時代）にもどりたいともの想いにふけることもある。振り返ることはできても、その時にもどることはできないとわかっていても……。しかしそんな事はいい想い出として残っている。人にとって何かに熱中することは、簡単なようで難しい。時には気分転換して、他のこともやらないといけないし。この俺の心をほんとうに晴れわたらせ、熱中させてくれるもの、それはいったい何なのだろうか。雲一つないあの壮大な青空の下で、汗を流しながら駆け回ってられたら……なんて考える時もあるけど―。人の生き方、それは様々だし、それをくどくど干渉もしたくないし、干渉されたくもない。俺だって限られる時間を思う存分使って、この原稿の冒頭の名言を心に秘めて、雲一つない青空の中で散々と輝き燃え続け

る太陽に負けないくらい俺の心を何かに燃やし続けたい。たとえそれがどんなささいなことでも……。

無題

人文学部　三年　野村敬子

自分という人間は、いつも人と違ったことをしていなければ、気がすまないらしい。人と同一に見られるより、ちょっと一風何がしか変わっていたい。つまり、自己顕示欲が強い人間なのでしょう。ついこの間、バス停でバスを待っていたら、かっこいい車に乗った若い男の子が、ガンガン音楽をかけて、キューキュータイヤを鳴らしながら、左折して行きました。その光景を、哀み見ながら、ふと男の子と自分と、どれだけの違いがあるのだろうかと考えました。

小学校の時の作文に、将来の自分という題で書かされたことがありました。その時、絶対に普通の人間にはなりません。と書いた覚えがあります。普通に高校を出て、普通に社会に出て働いて（その頃は大学へ行くなど夢にも思っていませんでした）そして普通に結婚して、普通に子供を産んで育てて……。こんな人生は決っして送りませんと。活気で、明朗、負けず嫌いだった自分が書きそうなことです。

でも、今の自分よりもはるかに純粋で、その頃の自分が恋しくさえあります。今と違って、まだまだ将来に夢をふくらませ、王選手のように有名にならなくとも、何か一つ大きなことをしてやるという無垢な心を抱いていました。もうじき、人生も四分の一世紀。幼い頃に否定して来た普通の人生を生きるのもしんどいものだと、つくづく思います。

「ボンヤリと」

商学部　四年　原口豊子

荒鷲の原稿を書くのも四回目になると、本当に何を書こうかと迷ってしまって、頭の中はカラッポなのに、こうしてボンヤリと鉛筆を進めています。どう考えても、私は、みんなのように人間的に立派でないし、かといって、何か取り柄があるわけでもないし……。あるのといえば、我がままで未熟な心だけです。だから、人の為になるような事は何も言えないし、荒鷲に何か書こうにも、何も書けないんですよね。

一年の時から、四年のみんなと、年だけは一緒にとってきたのに、精神的には、一人成長できずに、ずっと問題児のままです。だけど、四年のみんなは私を身捨てないで、本当によく面当をみてくれます。いつもいつも感謝しているし、何よりも大切な人達ちだと思っています。人間的にも、みんな一まわりも二まわりも大きくなって、そんなにスキになったみんながとても嬉しくもあり、また、みじめでもあります。

四月になって、着々と新入生も入部し、書道部にも新しい風が吹いてきているようです。一年生を見ていると、自分の入部した頃のことが、走馬燈のように頭の中をかけ抜けていきます。大学生活に対する希望と夢にあふれてきて、気分的にも充実していて……。今、一年生もきっとそうでしょうね。これからもその気持ちを大切に、自分に正直に進んで欲しいと思います。そうすれば、今の私のようなダメな人間にならずに

きっと、前向きですばらしい人間になれる所だと思いますよ。書道部という所はね……。

思いつくまま書きましたが、ラスト一年、みなさん、もう少しの間、面当みて下さいね。

書道部に入部して

経済学部　一年　増田　稔

ぼくが書道部のことを知ったのは、忘れもしない、四月のある日の夜のことだった。それは、ぼくと高橋とで「大将」と言う飲み屋に行ったとき、隅の方で二人で飲んでいる男がいた。その一人が坪矢さんだった。このときはじめて書道部のことを坪矢さんから聞いた。この話の中で書道部には女がたくさんいると聞いて、ぼくの心は書道部に入ろうとほぼ決った。

今考えてみると、こういう不純な動機で入部したぼくだが、入部してよかったかどうかはっきりしない。しかし、書道部の先輩達はいい人ばかりだということは、はっきりした。

はっきりいって書道部の練習はきついと思っている。だが、このきつい練習があるからこそ他のいろいろなことが大へん楽しくなっていると思う。やはり、人生には一つぐらい苦しむことが必要だと思う。

書道部の一員となった今、いろいろとやりたいことが頭の中にうかんでくる。しかしまず最初にやらなければならないことは、月、水、金の四時半から六時半まで行なっている練習に真剣に取り組むことだと思う。そして、一日でも早く字が上手になることだと思う。

これから四年間、この書道部にずっとついていけるかどうか自分でも自信がない。しかし、一度入部したからには四年間続けられるように努力していきたいと思う。

今、思うこと

法学部　二年　蓑原千枝

入学して一年たちましたが、私は一体何をしてきたのでしょうか。

今までは、時間におわれて、その場、その場を何となくきりぬけてきたようです。これからは、時間をもっと有効に使っていきたいし、何事にも悔いが残らないように、全力を尽くしたいと思います。

私は、クラブＯＮＬＹの人間にはなりたくありません。クラスの友達も、寮の友達も、……、大切にしていきたいし、クラブに行ったときには、そこで精一杯頑張りたいと思います。そしてもっと視野の広い、自分に素直な人間になりたいと思います。

今、私は自分の心の狭さを痛切に感じています。自分で勝手に想像して、思い悩んで……。このような自分から早く抜け出したいと思います。それに、自分というものを人にぶつけていきたいし、友人が困っているとき、そっと手をのばしてやりたいと思います。

自分の心がけ次第で、友達が遠くにも、近くにも感じたりするものですね。

あと三年間、いろんな事にチャレンジして、頑張りたいと思います。

書道部入部にあたつて

商学部　一年　木崎和彦

大学生活が始まって早一ヶ月が過ぎようとしている。自分としては、最初はどのサークル活動にも入ろうなんて考えてもなかった。でも講義が始まってみると毎日がただ登校、講義そして下校といった変化のない怠惰な生活であった。

そこで　”このままで四年間の大学生活を乗り越えることができるんかなあ“と色々と考えさせられた。そういう風に心に迷いというものを感じている最中、四月十四日の事各サークルの勧誘が始まった。

その日はいつものように、登校して掲示板を見入っていると、ポンと肩を叩かれて「説明だけでも。」と書道部に連れて行かれた。そしてそこで色々と説明を受けた。説明をしてくださった方が自分と同じ大分県出身ということもあり和やかな感じで話ができた。

その場で入部することにしたのですが、その理由としては、まず字がうまくなりたかった事、そしてサークル活動を通していろんな人と知り会いたかった……まあそういったところでしょう。

自分は、中学・高校とバスケットをやってきて、書道なんて文化的なものは、全くやってません。不安も大いにあります。それにこれまで珠算とか剣道とか習ったことがあるけれど、どれも途中で投げだしてしまったという格好で終わっているのです。

そこでこの書道部入部にあたり「最後までやりぬく」という信念を掲げてがんばってやっていきたいと思います。全くの初心者ですがどうかよろしくお願いします。

「甘え」の構造（甘えと自由）

商学部　四年　鶴岡英子

大学生活四度目の春を迎え、新学年と共に就職の事が頭に浮ぶ。学校でもすでに就職説明会等があり、社会の厳しさという現実の中でこれまで他の人々に甘えてきた自分というものがクローズアップされてくる。

ある本に”「自分がある」人は甘えをチェックでき、「甘え」に引きずられている人は自分がない“という一節があった。現在の自分はどんな人間を理想としているのか、そんな青写真を失っているようで、ものごとに対して前向きではなく”なんとなく……“と言ったふうに思える。それに集団（サークル）の中における自分と言うものも見失っているようだ。特にサークルにおいては他の人に依存する傾向がこの頃多く見うけられる。役員や先輩、同輩、後輩にまかせて”自分は自由だから“と言っては最小限にしかサークルにタッチせず、与えられた事をそれなりにやる。（サークル員であるにもかかわらずの無責任）それは一種の甘えであり、わがままであると思う。かく言う自分もこれまで何度となくサークル員で敷いたレールから脱線しては自由を主張していたように思う。即ち、集団が個人の思い通りにならないから自由にしたいのであって、その意味で根本的には、個人は集団を超越できないでいる。すなわ

ち日本的自由の観念は個人の集団に対する優位性の根拠とはなり得ず、このことは日本的自由がもともと甘えに発するからだと思う。なぜなら甘えは他（人）を必要とすることであり、個人をして集団に依存させることはあっても、集団から真の意味で独立させることはあり得ない。だから時には甘えたり、甘えられたりもいいが、先にも述べたようにその時々に甘えをチェックし、甘えられる事に対する他の人の存在、心のあたたかさ、人情、集団の良さを忘れずに自分に厳しく行ってほしい。これは私自身の教訓でもある。

新一年生も入部し、自分を含む四年生を頭とするサークルを思うと、これまで自分を育ててくれた（多分おおげさ？）サークルに対して、また同輩後輩に対して何かしてあげたい気持（感謝）で一杯です。

”あと一年よろしくね!!“

焼きたて 手造りパン
生ケーキ の店
喫茶コーナーも準備してます
Simon シモン荒江店 学割あり
営業時間 AM 9：00～PM10：00
荒江四ッ角 TEL (841)3050

COFFEE&MUSIC
JACK&BETTY
福大正門前 TEL 863－4287

福岡米穀株式会社 七隈四ッ角米穀店
福岡市西区七隈101－4
TEL 801－2389

幸福を求めて

法学部　三年　城戸　信比古

人間がこの世に生を受けて、その一生を終えるまでにはどれ程の幸福を、また不幸を味わうのだろうか。

人の幸・不幸を決め得るのはその当事者のみである。人はそれぞれの環境や価値感を有しており、一つの事に対しても様々な判断を下す。だから主観的な幸・不幸と客観的な幸・不幸には違いがあるために、哀れな人、可愛想な人が沢山いるが、主観的にみれば皆平等である。つまり、人がその一生を終えるのはそれまでの幸福と不幸とがプラス・マイナスゼロになった時ではないかと思う。だからといって人は生まれながらにしてその運命が決まっている、などとは思っていない。不幸は人に幸福を作る力を与え、幸福は不幸を招き易い、つまり、「不幸の後には幸福があるので希望を持て！幸福の後には不幸が待ち受けているかもしれないので気を抜くな！」と考えている。

人は誰でも幸福を愛し、幸福を求める為に嫌な事を避けて通りがちである。ともすれば若いうち、学生のうちに不幸を避けてばかりいると、社会に出てから直面する小さな不幸に耐え、そしてそれに適応してゆけなくなり、結果的に取り返しのつかない不幸を招くかもしれない。我々は常に客観的にも主観的にも幸福であるような、高い次元の幸福を求めている。だからこそ学生時代の僅かな不幸を克服する努力は惜しむべきではない。幸福は与えられるものではなく、自らの手で摑みとるものだから。

人間関係

法学部　一年　豊田　隆昭

大学生になった今、これまでの自分はあまりにも小さな人間であったような気がする。何をするにも自信がなく、回りばかり気にして、あっちに流され、こっちに流され、いつもふりまわされ、そして最後には、本当に大事なものまでも見失っていたようだ。

時々、こんな弱い自分がいやになったこともあった。そして、他人との間に大きなギャップを感じ、つまらない劣等感を抱き、ますます自分を小さくしていったものだった。だが、これらのことは、もっと人間関係をうまくしていれば、よかったように思われる。

自分にとって人間関係ほど、難しく、にがてなことはない。また、多くの人が、そのように思われているにたがいない。

人は無神経に人と接するわけにはいかず、また、互いに相手の心を探り合いながらも生活しにくい。ささいなことで相手を傷つけたり、傷つけられたことが多々あったものだ。けれど、そうは言っても、人は自分一人で生きているわけではない。どうしても克服しなければいけない問題である。

そして今、部活動にその答を見いだそうとしている。これから、いろいろな人と会って、相手のことを考え、また自分も考えてもらうことによって、相手からいい影響をうけ、また、相手なもいい影響を与えることができるように努力したいと思う。

浅い夢

商学部　二年　松山理恵

何故かいつも過去を振り返ってきた。そして後悔の多い私だったが、この一年、後悔することなく自分の心の思うままにやれた。春になって、もう前の私とは違う。もうもどれない。今、すごくすっきりとした感じ。切実に去年の私を思う。精一杯やってきた。人に何と言われようと私は一生懸命だった。

時がたつのは速すぎる。すべてが思い出になっていく。もうどんな事があっても、今の私は変わらないと思う。良くみられようとも思わない。どんな時でも自分をぶつけて行きたい。最近、団体の中で生活していくことのむづかしさを身にしみて感じるようになった。サークルという一つの集団の中で、みんなとうまくやっていくのは大変な事だ。うわべでは誰もついてこない。相手のことを思いやる気持ち、この〃気持ち〃が全てのように私は感じる。どんなにきれいな言葉を並べても、気持ちがなくてはついて行く自信がない。いつも心に何かひっかかっていて、あれこれと考えているみたいだ。私はもっといろんな場を持ちたい。一つの所にとどまっていたくない。多くの物を見て、吸収したいし、いろんな友達をつくりたい。時々、何もかもすてて、逃げだしたくなる時がある。

「花」と「私」

商学部　一年　大場満恵

花には二種類の生き方がある
山や野原に咲いている花
家の庭に咲いている花

これらは、どちらとも美しい。しかし生き方が違う。山や野原の花は、他の力を借りずに自分の力だけで生きている。それに対して家の庭の花は、人間に手入れされなくては生きていくことはできない。私は現在大学生という新しい出発をした。花で言うなら、落花してから新しく生きていこうとしている種子の状態であるだらう。山や野原の花は、そこから雨にも風にも負けず、自分の力だけで地上に出て、美しい花となるように努力していると思う。私はその花のような人間でありたい。人間に水をかけてもらい草を取ってもらわなくては生きていくことのできない花、そのような他人を頼りに生きていく人間には絶対になりたくない。

春

法学部二年　大宮　一

校内の桜も葉桜と化し、つつじの蕾が帳らみ始め、動植物が少しづつ冬の眠りから覚めだした頃私も一年前の記憶を手繰り寄せてみた。

広いキャンパス、冷たくて大きなコンクリートの建部、マスプロ化さ

れた講義、そして多くの人の波……。失望と空しさ……それでも惰性に任せた毎日を息を結まらせながら一ヶ月が過ぎていく。勉学にも然程身が入らず、友人もできずに下宿に燻子日々、私はどうしようもない苛立ちを覚えた。

「何かをしよう」そう決心して暗い建物の二階にある一室をノックした。「書道部」との出逢いである。そして大学生活の始まりであった。クラブの中での出来事は全て驚きであり新鮮なものであった。毎日の厳しい練習、集団の中での生活、新たな人との出逢い……どれをとっても私自身失いかけていたものばかりであった。曖昧さが許されず、人に弱さがある故に人を欲する。そんな人間関係の中で挫折を繰り返し、失意を感じながらも人の温かさに支えられ筆を持つ事を誇りにしてきた日々だけど、時間に押し流され感情に任せた一年であったのかもしれない。学生の本分を果たせずしてクラブに片寄った自分を見つめ、少なからずの後悔と不安は残る。が、人の温かさや数々の経験、様々な思考を基に確かな自信を得ることができた。

二年目の春を迎え思うことは、時間に囚われず多くの事に挑戦し、人の厳しさを解る様な人間になろう……。前向きの姿勢を忘れず、しっかりと歩んでいこう……。

来春の私の為に。

喫茶
魔女里香
福大バス停前　TEL 863－4240

焼鳥・炉端　大将
西区大字片江倉瀬戸129－5　TEL863－9958

生鮮食料品・一般食品・日用雑貨
寿屋Kコンビ 長尾店
AM10:00～PM11:00　西区長尾1－16－20　TEL092－862－4115

一考察

商学部　三年　丸田俊和

自分は、いつも嫌いな物は嫌い、好きな物は好きと割り切って考えがちである。嫌いな物に対しては、非常なまでの憎しみもともなってくる。しかし、その反面好きな物に対しては、大きな愛情を持つ、動物的な感覚の鋭い犬や猫に近い人間と思っている。

又、自分は、情に弱い人間で涙もろく、義を大切に思う、いわば古い型の考えかたをする若者（体は中年）だと思っている。

自分の性格については、いままで述べてきた通りだが、人と人の間に居るから人間といわれる以上、自分の性格に合わない事はやりたくない、したくない、また、嫌いだから好きだからだけで判断できるのは、中学生くらいまでだと考える。（自分がそうだったので）自分にあたえられた場所、自分で選んだ場所で自分の能力、性格なり適応させていく事が高校以上の者に必要になってくる。単に嫌い、単に好きと考えるのでなく、逆になんでなのかを考える、常に冷静な判断の力というものが、自分の大学生としての自覚というものに、つながってくると考える。

現在、自分に欠けるもの、クラブ員に欠けるものは、そこにあるのでは、と考える。

クラブに入る前と後の変貌

経済学部　二年　津村文彦

何の目的もなく、大学に入学し、卒業して行く自分に対する不満。このことが、クラブに入る登龍門であった。昨年一年間、大学と自宅の往復だけに終り、又、今年も大学と自宅の往復に終ってしまうという物寂しさ。

そして、今年も又、新入生勧誘週間が始まり、一日一日が、あっと言う間に過ぎて行ってしまい、勧誘週間が終ろうとしていた。自分の気持ちの中では、二年になったら、クラブに入ろうという決心がついていたものの、いざ入部して自分がどれだけ頑張ることが出来るか等……自分特有の杞憂が脳裏をよぎり、入部にはなかなか至らなかった。

幸か不幸か、幸いにして自分は書道部に入った。入ってまず感じたことは、先輩、後輩のけじめの厳しさであった。しかも、自分は記憶力が余り良くないので、先輩あるいは同輩、後輩の名前と顔が明瞭に摑むことができなくて一苦労している。

しかし、これも一つの経験と思って一日も早く先輩ならびに同輩、後輩の名前を覚えようと必死だ。また、自分は自宅通学に長時間かかり、そのため、帰宅時間が遅くなり苦労しているが、自分は並苦労は承知の上で入ったのだから、これから短い三年間ではあるけれども、一生懸命頑張りたいと思っている。

最後に、先輩はもちろんのこと同輩、後輩に信頼出来る一個の人間となりたい。

巨視的に

薬学部　三年　佐藤朋子

人間というものは、死ぬまで、不平を言い続けるものであるらしい。自分のすべての生活において、もし満足しきっているとすれば、それは老衰の現象か、無気力の証拠と言っていいだろう。大袈裟に言ってみれば、不平は生きる為の一種の活力であり、それがあってはじめて充たされた生活への努力があるとも言える。

しかし、不平には二種類ある。自分を反省して、自分の仕事や行いや性質に対して不平を抱いている場合と、自分の事は棚にあげて、他人や還境や社会に対してのみ不平を言う場合の二つである。人間は、何かひとつの仕事に熱中すると、必ず自分の能力に対して疑問を抱くものだ。或る場合には、絶望を感じるだろう。そういう自己への不平は、人間として美徳である。といっても絶望していてばかりでは困るが……。

とにかく、始末の悪いのは後者の場合だ。あらゆる情報が氾濫しているが、それらに接して、頭の中に何か見解らしいものが出来あがる。そしてあらゆるものに対して、ああでもない、こうでもないと不平をもらすことが多くなった。それがちゃんとした批評なら差支えないが、今述べたように、こんなはずではなかったなどと、自分のことは棚にあげて、他人のことだけに不平をもち、自分自身を完全に正当化するとすれば大変不幸なことだ。

自分を知ることは難しい事だが、お互いこの点で謙遜になって、その上で、充たされた生活を考えるべきであろう。そういう生活は、永久に来ないかもしれない。或る刹那は満足しても、すぐ新しい不平があたまをもたげるかもしれない。しかし、不平に二種類あることを、心がけて、いる場合と、そうでない場合とでは、そこに雲泥の差が出てくるにちがいない。光はすべてを万遍なく照らし、自分をも照らしていなければならない。不平の為に、自分を消耗してしまうほど愚かな事があろうか。

海

商学部　二年　志岐直樹

今自分は、ちょうど一年振りに「荒鷲」の原稿を書いている。こんなに一年が早く、また順序立てて過ぎたことがあったろうか。企画され、あらかじめわかっている行事をひとつひとつこなしてきて、それらの重要性あるいは内容を認識しながら、一年間のプログロムを終えた気がしている。

しかし、その行事中または行事と行事の間には、小さな事で悩み、くよくよした時期もあった。そんな時には、どこかおおらかで、のんびりとした所へ放浪して逃げ出したくなったこともあった。ほんとうにこの一年間は大波の連続であったような気がする。

ある時、先輩に書いてもらった一言「お前、海の広さに何を感じるか」その時は、ただ雄大で広いという単純な考えしか創造できなかったが、今は先輩の言おうとしていたことが恥ずかしながらわかっているつもりでいる。今自分がくよくよしている時に考えることといえば、この言葉がありきたりであるけれども、スーッと頭に浮かんでくるのである。す

ると何となく海が見たくなってしまって、一日中でも海を眺めていたい気分になるのである。志岐直樹十九才。これからの人生、海を友とできるような人間になりたい。

最近、自分と同じように書道部に入部した一年生がいる。これからの四年間、どんなことにも負けずくじけないで続けてもらいたいと思う。

恵まれた社会生活の中で

法学部　四年　松尾幹雄

大学の最高学年を迎え、何かと年よりくさく煙たがられる今日この頃ですが、私自身この四年間を振り返ってみて、いったい何に、どのように取り組み、何を得、また自分が何か残してきたものがあるでしょうか。

大学とは、「教育の最高学府であり、そして又社会に出る一歩前の学校」であると、皆さんも江田島で耳にたこができる程、優しい先輩達から聞かされた事を覚えておられると思います。

今、仮に私が三年間を終えたこの段階で、明日から会社に勤めるとすると、果してそこでどれだけのことが大学で社会に出る一歩前のものとして得ることができ、又自分にあるのでしょうか。

今の世は、あまりにも物に恵まれ、又恵まれていること自体を当然のように思っている人達が多いようです。彼らは自分達がやっていこうとする中で、結果というものをあまりにも創ってしまい、そこに自分自身甘んじている、それが今の世代の特徴ぬように思えるのです。

今から先、より以上に物の豊かさというものは増えていくと思いますが、その中で、ただ単に当然な結果だけを受け入れるのではなく、自分から結果というものを掘り起こしていこうとする精神で突っ張りたいと思います。

最後に、意気さかんな若々しい書道部員諸君は、四年生に劣ることなく貧欲に過ごしていってもらいたいと思う。

〃みなさん頑張りましょうぜ〃

三年目

法学部　三年　崎坂真弓

今年も新入生を迎えて、どこもかしこも新鮮な風が吹いている今日此の頃。

本当に早いものである。いつの間にか大学生活も三年目となってしまった。友達一人いなくて、広い構内で一人講義に向っていた日がまだはっきりと思い出せるのに。

さて、大学生活も半分が過ぎてしまったわけであるが、何もかもが初めての経験であった一年、少しばかりゆとりを持った二年。この二年間は有意義であった、と言い切るのは、私にとってちょっと無理がある。本当に多くの反省が残っているし、後悔もある。しかし、この二年間においての経験、人間関係は私に様々のものを与えてくれたし、考えさせてくれた。その中でも特にクラブは、私にとって大きな位置を占めていたと思う。実際、クラブの生活が過去二年間の大学生活の大部分であり経験の大部分といっても過言でないかもしれない。諸先輩方、同輩、後

輩とのつながりなど、クラブなしでは感じることができないであろう経験をさせてもらっているし、クラブならではの悩みも、それはそれで良い経験であった。

そして今年は、クラブはもちろん他の面においても、この二年間を土台として、もっともっと自分自身を切り開かなければ、と思っている。人に甘え、頼るばかりでなく、自分をしっかりと見つめ成長多き一年になるよう努力したい。

くじけそうになった時に

商学部　二年　二一　村　暁　美

人は誰しも苦しい時、辛い時もあれば、楽しくてしょうがない時もある。苦しい時に「あ―辛い」と言って思い悩んでいても解決策が見つかるというものでもない。当然だが、そこから逃げれば苦しみからはのがれられるにせよ、またいつかぶつかるに違いない。私は負け犬にはなりたくない。人から一言忠告されて二歩も三歩も引き下がるようなそんな人間にはなりたくないのだ。

もっと強くなりたい。自分がこの世の中で一番不幸な人間だなんていじけた考えは持ちたくない。もっと広い心でいたい。今、辛いからといって背を向け、快楽ばかり味わう人生は送りたくない。後ろに下がれない程の断崖絶壁があろうとも途轍もない広く深い川が目の前に横たわっていようとも、そんな厳しく辛い人生が待ち受けているかもしれない。でも私はくじけず一歩一歩踏みしめて生きていきたい。

あの沼地に生きる葦のようにたくましい生命力を持ってぐいぐい伸びていくような人になりたい。

最後にくじけそうになった時、この文章を読み返すことにする。

自分自身への戒め

工学部　三年　横　山　佳代子

この白い原稿に向かって何を書こうかと考える。頭の中では引き出しからいろんな事が飛び出して来る。なのにペンは、なかなか動こうとはしてくれない。季節は春、大学三年の春、二十歳の春…。いつもは、うきうきしてしまう春だというのに妙に沈んでしまう今年の春、自分に問い掛ける回数が増えたせいもあるのだろう。いつまでもひたむきに熱中できる自分でありたいと願いながらも、知らず知らずのうちに自分自身で基準を決めてしまっていたようだ。だからなおさら自分に「これでいいのか。」と問いかけていたのだろう。今、もう一度問いかけてみる。心の中でいろんな私が言葉を交わす。楽な方へと流されたがる。そんな時、中の一人が戒める。

誠実を以、事に当れ。
希望を以、事に当れ。
自信を以、事に当れ。
理想を以、事に当れ。
真実を以、事に当れ。
さすれば、事は、自ずと開かれ、

今日に、明日に、輝くであろう。
時に、輝きを感じぬのは、自れ自身の性。
時とは、輝き、眩しいものなのだ。
勇気を以、事に当れ。

戒めを口ずさんでみる。

自己をみつめて

商学部　二年　高杉素子

柔らかな日差しが注ぎ、木々が生命を宿す春。

一年前、不安と希望で胸をふくらませて大学に、そして書道部に入って来たことを思い出すと、随分と昔の事のように思えます。

最近の私はと言いますと、大学生活にもすっかり慣れ、何だか、ただ一日一日を無駄に過ごしているだけのような気がします。つまり、無欲無感動な人間になりかけているようです。すべての存在が生き生きと見えるこの時期にあって、何とも自分が情けないとつくづく反省しています。

人間、生まれてきて、同じ一生なら暗い時期より明るい時期が多い方がずっと幸せなんだし、また、生き方とは自分自身によって築きあげていくものだから、自分に対して正直に生きていくべきだと思います。

人と接する時などでも、誰しも人から少しでもよく見られたいと思う気持ちを持っていると思います。でも、それによって自分を失う事は絶対にあってはならないと思います。他人が在る前に、まず自分がなくては何にもならないんですから。

だからこれからは、自分が正しいと信じていることに対して自信を持って行動していきたいし、また、本当の人の優しさ、暖かさを感じとれる人間でありたいと思っています。

〃絶対的真理〃

工学部　三年　床嶋俊一

人の一生は、持って生まれた素質と後天的によって得た素養とによって成功にもなり、失敗にもなり、偉大にもなり、矮少にもなります。学生時代は、将来に備える最後の賭であると言えるのではないでしょうか。それだけに今という瞬間に目的をもって生きたいという誘惑が絶えずつきまとうのです。しかし、それに打ち克って後天的素養を得た人こそ人生に於ける勝者になれるのではないでしょうか。では、大学時代に何を得たらよいのでしょうか。

人間は誰しも試練に出合い苦境に立たされます。そして自己で判断し自己で決断しなければなりません。それも正しく、しかも迷わずに。その為にはそう判断し、決断を下す基準が自己の中で絶体的なものとして捉えられていなければなりません。私という人間が砂土ではなくて、地を深く堀り、岩の上に土台をすえて建てられた存在でなくてはならないのです。洪水が出て、激流が押しよせてもびくともしないような！

私達は、毎日大学で多くの知識を得ています。しかしその中でも何よ

りも必要なのは自らの不動なる土台となるべき真理です。真理とは絶対的なものです。そしてそれを絶対的なものとして受けとらねばなりません。そういう悟り体験が必要です。八十パーセント確かだと思えるものを千個得ても大したことはありません。それよりも絶対確かなるものを一つ得ることの方が大事であり、むずかしいのです。

書道部―先輩として後輩として――

経済学部　四年　大　家　一　之

自分は、サークルに入部して活動して七年（高校時代から）になる。現在自分は二十一才だから三分の一を、又これから七十代まで生きるとすれば、十分の一をサークルに関わって過ごしてきた事になる。何故このようにサークル活動を続けてきたのかを考えてみた。

一つは、多くの人間と知り合えたという事、もう一つは、書道部を大いに利用したという事、そして最後にサークルが好き、書道部が好きであるという事である。多くの人間と知り合えたという事は、それだけ自分をみてくれる人が多いという事であり、悪い所・良い所を指摘してくれる人間が多く、自分が一段と人間らしくなる為の一助であった。又、書道部を利用したという事は、書道部のあらゆる行事に参加し、それにより多くの友を知ったり、いやな事、恥ずかしい事をさせられたり（こう思ったのは最初だけであったが）して人間的に大きく成長する為の一助であった。そして最後にサークルが好き、書道部が好きという事は、理屈ぬきにである。書道部に愛着を感じていたという事である。このような事は、自分が後輩の時より、先輩になった時に感じた事である。

ある本に、次の様なことが載っていた。『組織でベテランの人達が生き生きと動いている組織は伸びる。逆に、窓際へ押しやられている組織は先が暗い』と。これは、先輩である自分にとって非常に厳しい言葉であった。やはり日がな一日中を窓際で背中を丸めて過ごす先輩の姿に自分の将来を見てしまった。後輩がやる気を起こすわけはないと思う。先輩としての心構えを教えられた一文であった。

多くの後輩諸君は、大学生活四年間で思う存分活動していってほしい。たとえ、それがその時には自分にとって何も見返りがない様に思われる時でも、将来絶対に自分の成長の糧となる事を確信してほしい。何事にも積極的に思う存分力を発揮できる事は素晴らしいものである。

最後に、全員に望むことは（自分も含めて）大学を卒業しても書道部の事を絶対に忘れないでほしいという事である。頭のすみの方に、書道部での四年間の事を記憶していてほしい。その為にも今の一分一秒を大事に過ごしていきたいものである。

失敗から始まる

人文学部　三年　児　玉　富　美

誰でも成功したい。試験においても、仕事においても、恋愛においても。そしてその時は、これさえうまくいけばあとはどうにでもなる。これさえうまくいけば幸福になれると思うのである。逆に、これに失敗すれば自分自身みじめだと思い込んでしまう。そんなことはないと人にい

いきかされても、そう思わずにはいられない。
それに夢中な時は、それ以外のものが心には見えない。仕事をしていると世の中には、この仕事しかないと思ってしまうのである。
我々の今この時期には多くの成功と失敗を味わうほうがいいと思う。波のない生活よりは、様々な波のおしよせる生活の方が喜びも悲しみもずっと大きいからである。
そんなことぐらいあえて書かなくても皆知っているはずである。でも理屈ではわかっていても実際は無難な道を選んでいるのではないだろうか。
人はわざと失敗することはない。要は物事に取り組んでいる時の己れ自身の姿勢である。中途半ばな気持ちで始めるのではなくて、全力投球でぶつかっていくことだと思う。
失敗をした時はくやしさで一杯になる。しかしその中で数々の問題点をふり返ることによって次回への成功への道と続くこともあるであろうし、今まで気づかなかった事を新しく発見するかもしれない。
とにかく、楽をしようとは思わずに自分だけがどうしてこんなにと思ってしまうほどに苦労をつんでいくのも現在の我々にとっては、すばらしい経験の一つになるのだ。

焼とり
あかし
西区田島四丁目17－18（田島派出所斜前）
TEL（844）3325

スピード3時間仕上げ
大穂クリーニング
西区友丘油山地所横　TEL（871）3492

マコ美容室
博多区泰良屋町　TEL（291）0915

巣立ち前

理学部　四年　十代田　雄治郎

四年間の月日は、私に多くの経験をさせてくれた。大学生活の思い出は、未来に向って拡がり色々な場面に役立つことだろう。

書道部という巣箱は非常に居心地がよくて、そんな環境の中でいつの間にか大きくなった翼を休めていた自分に気がつき、いざ飛び出そうとすると、何故か勇気を失っているようで。大きな翼を持ちながら飛ぶことを忘れた鳥は死を待つしかないのだろうか。集団の中では、その姿は年々大きくなって行く。言葉だけで力を発揮出来る人間になってしまう時が多くなる。

過去の栄光にすがって自分自身があたかも輝して歴史を築いたかのように光を発する。しかし、その光は次第に幅を失って最後には見えなくなってしまう。そんなことは御見通しだと目をむけることのない集団。集団の動きが少しずつ変ることを敏感に感じていても過去形で語ってしまうと未来には通用しない。

伝達というものはいつも過去形であり、未来を創造しているように感じるが、未来を知ろうとすれば過去を探って行くものであり、それが伝統として輝しさのみ残している。

そんな集団にもすばらしい宝は沢山あふれている。しかし、そんな宝を見失っている者も多いようだ。自分もそうであろう。

それは、一つ釜の飯を食う者が、とかく人間関係ができても、自分を見失ってしまうことが多いようなものである。一つの釜の飯を皆で食べることもいいが、自分一人で食ってしまうことも必要かつ十分なものであろう。

さあ出発の時、大空に飛び出しその翼で風をきり、蒼い光に輝らされて。

部員の一言

法学部一年　鍋藤利浩

四年間頑張り通し、精神を鍛え、大きな人間になりたいと思います。

法学部一年　松本真士

現在、書道部ではいちばん字の下手な私ですが、一生懸命がんばりたいと思います。

経済学部一年　石橋正隆

漱石の「草枕」、小林秀雄の「考えるヒント」、三木清の「人生論ノート」、旺文社「ラジオテキスト」が愛読書。

商学部一年　高橋一俊

字がムチャクチャヘタな僕だが、練習して、なんとかうまくなりたいと思います。

商学部一年　木崎和彦

書道に対して、全くの初心者である自分。いろいろ言ったところでどうなることでもありません。ともかく、今の自分にとって言えるのは「がんばる」の一言につきます。

経済学部一年　田原信秀

四年間、書道、勉強、女？　とにかく、先輩のいいところを見習ってガンバろう。

法学部一年　豊田隆昭

これからの大学生活において、新しい自分を見つけるように努力したいと思う。

経済学部一年　増田稔

字がうまくなるように、がんばります。

法学部一年　諫山聡

しらけた人間！その名を返上。バカになりきる人間になろう。

経済学部一年　千葉達也

〝書道〟と呼べるような字が書けるように、がんばります。

……広島万歳……

工学部一年　江越健二

私の大学生活の目標〝小人閑居して不善を為す〟　書技を高めるため、努力していきたい。

商学部一年　大場満恵

意義ある大学生活を送るために、失敗を恐れずに、何事にも積極的にやっていきたいと思います。

経済学部一年　市川初江

おとなしくて、従順な私ですが、どうぞよろしくおねがいします。

人文学部一年　貞苅静香

四年間を、書道部の一員として、やり通す根性を、この一年で、身につけたいです。がんばります。よろしく。

経済学部二年　満生憲親

今年は、冷静に物事を見つめ、情熱をもって何事にもぶつかる。

経済学部二年　中村純一郎

清らかな筑後川の流れを見ながら健善に育った。故郷を懐しく思う今日この頃……??。スポーツで汗を流すことの好きな俺です。

法学部二年　柴田直人

性格温厚、体力ナシ、詩と少女マンガを愛する少々変わった堅物少年。よろしく。

商学部二年　志岐直樹

現在、何かに燃えたく、書道部の中で必死にその何かを探してる男、志岐直樹、どうぞよろしく。

あなたのための
カット＆パーマの店
七隈美容室
七隈467－66 積ビル内　TEL (864)2692

天下の焼とり　年中無休
無法松 3号店
友泉亭油山観光道路沿・大神ビル一階　TEL (741)1030

書道用品・ドラフター
藤原文具
西区友泉亭（友泉中学校横）　TEL (751)9800

経済学部二年　津　村　文　彦

自分は、二年から入部したので、先輩ならび同輩の技法を盗んで、一日も早く追いつき、追い越したい。エレファント津村でした。

工学部二年　山　城　邦　敬

今からの一年間を、悔いがないように、楽しい時は楽しく、厳しい時は厳しく、けじめのある生活を送る気持である。

経済学部二年　小田部　二三典

いよいよ二十歳、花の二十歳を、まっしぐらに進むのみ。頭もすっきりした。青春大爆進、コタチーン。

法学部二年　坪　矢　一　義

今はとにかく、がむしゃらにやるしかない!!。書追部なんて問題を与えるばかりで、答えはないけど……。

法学部二年　梅　崎　孝　夫

今年は、呉昌碩のような迫力のある強い線を書けるように、練習に精を出したいと思います。

経済学部二年　江里口　吉　光

大きな山、大きな海。人間なんて小さいものだ。だが、人間の力でどうにもなるんだ。がんばるぞ！

商学部二年　高　杉　素　子

春風のようなさわやかな気分で、一日を送りたいです。

法学部二年　簑　原　千　技

悔いのない大学生活が送れるように、この一年間、精一杯頑張ります。

法学部二年　平　田　経　子

良き先輩となり、良き後輩となれる様ガンバります。

法学部二年　大　宮　一

謙虚さと、思いやりの心を忘れずに、人との出逢いを大切にしていきたいと思います。

工学部二年　西　口　公　恵

今年は、後輩であり先輩である難しい立場をふまえて、かぎられた時間内で精一杯練習をし、書技向上につとめたい。

法学部二年　鷲　崎　ゆみ子

何事にも、自分のベストをつくすつもりだ。

商学部二年　二　村　暁　美

どんな時でも耐えられる〃忍耐力〃を人と人とのふれあいの中で確実にしていくよう努力するつもりである。

商学部二年　高橋福代

何をするにしても、計画倒れにならないように努力し、又、早くマイペースを作り頑張りたい。

商学部二年　松山理恵

夜、一人で星をみて、ボケーッとするのが大好きな私です。

工学部三年　床嶋俊一

時間に流されるのではなく、時間を流したい。すべての時間が意味をもつように。

商学部三年　丸田俊和

この一年間を、素直な気持ちで受けとめられる、大きな人間、ずぶとい男になりたいと思います。みなさん、よろしく御願いします。

経済学部三年　浜田清治

誠実そしてガッツを信条として書道部発展の為に全員一丸となって頑るぞ!!

法学部三年　城戸信比古

楽天的な性格を生かしておおらかな字が書けるようになれたら県展に入選できるかも……。練習あるのみ！

コンパ、宴会、50名までＯＫ

焼とり
炉ばた焼　徳川

福岡市西区長尾１丁目油山観光道路
ＴＥＬ871－0961

信頼のカット・パーマ・着付・クオレ化粧品

ミツワ美容室

福岡市西区七隈四丁目2－21　ＴＥＬ（871)2501

メンズショップ

コガマン

別府少学校バス停前　ＴＥＬ（851)5655

薬学部三年　天野仁子

「女の友情」は成りたたないと言うけれど、今は、大切にしたい。

工学部三年　横山佳代子

「自分にこりかたまらぬよう、自分をじっとみつめていきたい」

薬学部三年　佐藤朋子

物事にとらわれず、真透な選択ができるようにしていきたい。

人文学部三年　手島玲子

充実した悔いのない一年を、送りたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

人文学部三年　児玉富美

どれほど月日は流れても、いつも心のどこかには、入学当時のあの新鮮で、不安で、ちょっと緊張した気持ちを持ち続けていたい。

人文学部三年　渡辺泰子

今度生まれてくるなら、絶対に男の子がいいと思いながらも、今は、女の子で満足している私デス。

理学部二年　松藤美津子

日々新たな気分で、頑張りたいと思っています。

人文学部三年　野村敬子

親の暖かさをつくづくと感じています。それを無駄にしないようがんばります。

法学部三年　崎坂真弓

今年こそ、時に流されるのではなく、時を刻んでいく日々にしていこうと思っています！　よろしく!!

経済学部三年　椛島文子

時間の貴重さを知り、あと二年大切にし、素直に自分をみつめていきたい。

経済学部四年　重松裕人

学生として、書道部員として、そして男として、この福大を卒業して行きたい。……もう一年、もう一念。

理学部四年　十代田雄治郎

書道部員よ!!君達が波なら俺は岩だ。いつでも俺の胸にぶつかってこい。

経済学部四年　大家一之

この一年間で、十年間分の青春のドラマを作成する映画監督のような生き方をしたいと思います。

経済学部四年　酒井昌弘

私の学生時の放浪の旅は、いま終わろうとしている。炎が燃えつきる如く、胸に秘めた灯を燃やしていこう。

法学部四年　鶴田定司

王貞治、大山増達、モハメド＝アリ、瀬古利彦、アントニオ＝イノキ、俺は、とてつもなく大きな人間が好きだ。

法学部四年　松尾幹雄

詩の心をいつも新鮮に受けいれられる、そんな男でありたい。

工学部四年　佐藤雅秋

パチンコ、マージャン、勉強……すべて僕にまかせなさい。

経済学部四年　浦泰介

「山椒は小粒でもからい」このような人間になりたい。

商学部四年　鶴岡英子

〃デコ先輩〃と気軽に声をかけて下さい。人生論、恋愛論、その他いろんなメニューをそろえて待っています。残り一年よろしく!!

人文学部四年　三小田佳子

一時はまき返しも考えてみましたが、……結局、私に残ったものは……陰険さだけ……

薬学部四年　藤原弘美

涙なんて大嫌い……。

商学部四年　成田睦子

早春のころ、無意識のうちに、涙がほほを伝ってこれたら――。

工学部四年　中村和美

〃立てば芍薬、座れば牡丹、歩く姿は百合の花〃この格言の如く、素適な女性になりたいなあー　と常に願望している私ですが、実際は……?

商学部四年　原口豊子

私のこの一年間の目標。この目標をできるならば、私の生涯の原点としたい。その目標は〃美・サイレント〃!!

特別寄稿

我部の機関紙である荒鷲も、今年で２２号を迎えることになります。これまでの各荒鷲も、保存版として残してありますが、これが部員に読まれる機会というのは、非常に少ないと思います。

しかし、これら保存版の中には、先輩方のすばらしい考えや、学生として古今変わることのない悩み、楽しさなどが、いっぱい綴られています。これらのものを、部員の目にふれることなく、埋れさせておくには残念に思い、少しではありますが、今年の荒鷲に載せることになりました。ＯＢの方々に御頼みして、当時の自分の文を読んでの感想も載せておりますので、みなさんの今後の参考にしてください。

女子部員の積極性

昭和四十三年度卒　坂　下（海尾）千代子
（昭和四十一年　商学部　二年）

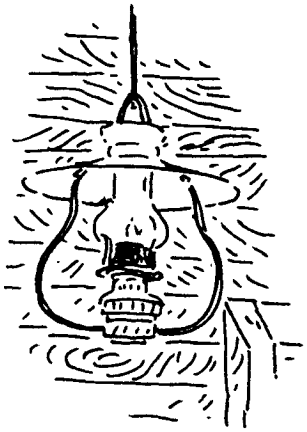
入部して早や一年が過ぎた。近頃練習の時、ふっと顔をあげて新入部員が真剣に書に向っているのを見る時、二年となってなんだかくすぐったい感と同時に頑張らなくてはという気持が交互する。一年間、クラブ活動での自分を振り返って見る時なんだか夢中でついてきた様な感を抱く。最初の練習の時、友達と日本間道場をちらっとのぞいた時、実際のところそのまま練習せず逃げて帰ろうかと思った。女性が一人もいないのである。福大特有のものではあるが……。なんかのまちがいかしらと思った程である。皆んな同じ様な男性が大勢、各々のスペースをとりきちんと並んで書に向っていた。戸のところで友達とどちらが先に入るかを争っていると一人の先輩がめざとく見つけて早く練習する様にとうながした。二人とも不安でドキドキしながら半ば、あきらめの念をもって指摘されたところへ座った。今では本当に無我夢中で何を書いたか忘れてしまったのだが墨をすって二、三枚書いていると、目のとても大きなスラッとした女性が入って来た。先輩かなと期待したのにもかかわらず後から同じ新入部員だということが分った。結局、毛筆部門の女性の先輩はいなかったわけである。それほど先輩がいわれる如くこの書道部は女子部員が育たないところだそうである。その原因は色々あるだろうがクラブ内での女子部員の存在を考えて見る時、私自身にも大いにあるのだけれども、余りにも女性特有の非積極性がわざわいしているのではないかと思うのである。クラブ活動をスムーズに進めて行く為にはある程

度自分が一人の女性であることを忘れて単なる一人の部員として、クラブの発展を常に思いながら自分を練っていく方法をとるより他にないのではあるまいか。一人の部員としてそれ相当の行動をし、部員総会やグループで話し合う時などに自分の考えていることをあからさまに言うべきだと思うのである。こんなこと言ったら女のくせになまいきだなんていわれやしないかしらなど考えず、言うべきことを言うべき時にははっきりと意見を述べるべきなのである。肝心な時に言わないで後でコソコソ言うのは、女の子の最も悪い見本みたいに思われているのも女の子は非積極的であるという見方からきているのではないだろうか。この一年間、私はとにかく夢中でついてきた。最初の二、三ヵ月とても悩んだ頃があった。女子部員がとてもいやな時、それは女の子一人で練習する時、である。話す相手が居ない時程悲しい時はない。自分の口からは声というものがこれから先、出るのだろうかと錯覚する程、一言もしゃべらなかった時があった。しかし時が経つにつれて男子部員とも少しずつ話せる様になり、二人の女子部員とも事ある毎に仲よし同志になっていった。夏季合宿はとてもおもしろかった。三人で私の下宿の三畳の部屋で夜遅く迄、あれやこれや次から次へと語りあかした。次の日は目を赤くして書に向ったけれども三人とも一構かまわず書き、しゃべり、笑いころげていた。どうしてもっと早くこんな愉快な気持ちになれなかったのだろうと思う時、自分が余りにも自分のカラにとじこもって消極的であったということがひしひしと分るのである。

女子部員に積極性が欲しいというのは行動面だけではなくあらゆる面に積極性が欲しいのである。本来の学生としての積極性、書を学ぶ積極性書道部員としての積極性……等。こうしてあげれば数かぎりはない。大げさに考えればこうである。大げさに考えなければ、急がず、ゆったりと気軽にじょうだんで人を知るのに似てはいないだろうか。男子部員に欲するところは女子が少いからといって特別待遇はやめてもらいたい役員も女子だからといって甘くしないでもらいたい。どんどん使って欲しい。大げさに考えなくて一人の部員として扱ってもらいたい。こんなことが女子部員の願いなのではないかと思う。

今年は女子部員は一人である。一人でも負けずにがんばって欲しい。何でも相談して欲しいと思う。そして来年は一人でも多く女子部員を募りたいものである。

福大書道部に女子部員が消滅しない様に!!



「十兵衛」

昭和四十七年度卒　野小生　周　作
（昭和四十七年　法学部　四年）

馬鹿でとんまでおっちょこちょいで、およそ人を愚弄する形容の全ては彼の為に有る様なものでございます。まあ大抵の人ならそんな続け様に言葉を並べられれば怒りもするんでしょうが、彼は自分自身でもそう思うんですから、怒りようもございません。

そんな彼が何を思ったか例の調子でノコノコと書道部やらやって来るんですから、どうしょうもございません。だってそうでございましょう。およそ書道部なんて倶楽部は、そんなお人好しに努まる所ではございません。積極的という形容が、あつかましく、ずうずうしく、自分の欲望にまかせた利己主義が、堂々まかり通る世界でございます。それが平気で許される風潮が人によっては天国でもございましょうが、自分を馬鹿だと自分自身で決めている彼にとってもやはり彼等があわれに思えたりするのでございます。それはさて置き、そんな彼の肌に合いそうも無い世界の中に、彼がそうまで身を投じた理由は、実は彼の馬鹿さかげんにあるのでございましょう。まあ、俗に馬鹿の一つ覚えというのでございましょうが、今まで何となく生きてきた中で、何一つ満足な結果を得たものはございません。それも当然と言えば当然なことではあるんでしょうが。初めの頃は、何度となく、くやし涙を流した事もあるんですが、自分を馬鹿だと決めた時以来心に決めた事がございます。いくつもいくつもの失敗の繰り返しの中で、結果に期待せず、過程の中で満足するものをみつけるという事です。確かに言葉にすれば簡単な事ではございますが、人は皆多少の違いはあれヒロイックな感情を持ち合わしておりますから、やたら人に出来るものではありません。愚鈍な人間に特権があるとすれば、そんなもんでしょう。彼は自分の字がまずいのをよく知っていました。例にたがわず、この事に関しても愚弄されることはあれ、生まれて一度もその事で人様からおほめを受ける事も無かったし、いくら贔屓にみても、他人のよりも、まずいんでございます。「字は読めさえすれば」と彼自身が思うんでしたら、この事は、いささかの問題にもならないんでしょうが、ノートを取る時も、日記を書く時も「うまくなりたい」という願望が念頭にあるんですから彼にすれば、一身上の問題です。だから彼が書道の門をたたいたのもうなずける理由はある訳です。一緒に机を並べて書くんだけど皆、自分とお話にならない程きれいな字を書くんです。決めた事とは言えやはり、いやなもんでございます。

そんなある日、彼にとって、一つの決定的瞬間が訪れるのでございます。それは、なぜだかは知らないのですが、偉い先生がおいでになって、皆の書を視ようという事になりました。皆我先にと、腕前を、先生の目の前に披露するんですけど、そんな彼はただもじもじするだけでございます。先輩にしりをつつかれてやっと差しだしたんです。「つまらんな、線がなっとらんよ。」たいていの言葉は覚悟はしていたんですけど、これ程決定的な言葉はございません。文字は一本一本の線の組み合わせでございますから、この一本の線がダメだと言われる事程、ガックリ来る事はございません。その時彼は、卒業するまで、一本でいいから満足のいく線を書こうと心に決めました。彼は、何かにつかれた様に毎日毎日、線を書きはじめました。一本一本たんねんに。縦線も横線もいうんじゃございません。毎日縦線ばっかしです。同期人は、半紙から半切、そし

て、聯落へとすすんでいくんですけど、かれは半紙に、半紙がなくなりゃノートの切れはしに、又は、新聞紙に縦線ばっかしです。

年に何度か展覧会もありました。皆立派な作品を書くんですけど、彼には作品は書けません。しかしやはり皆提出と言う事になれば、そんな理由はぬきですので、半紙に何本も縦線を書いて出すんです。それはお話になりませんので、一度も展示される事はございません。丸めて捨てられるのがおちです。しかし、誰かの気まぐれで、卒業前の展示会で、やっと展示された事が有りました。珍事でございます。皆色とりどりの豪華な表装をほどこした、流暢な作品の中に半紙に書かれ縦線一本の作品とも言いがたい作品があるのですから。端っこではありましたが、多くの人の目にふれました。人が何を思ったか知りません。しかし彼にわかっているのは、四年間書き続けた縦線の中に満足した線は一本も無かったと言うことだけです。

サークル観

昭和四十九年度卒　地頭薗　裕　孝
（昭和四十八年　商学部　三年）

人それぞれ考え方が違うように、入部の目的も様々であろう。しかし、このような組織においてどこかで一致（共通）するものが必要と思う。それが、我々で言うならば、「書くこと」、だと思うのです。サークル活動に於いて、この特殊性を通じての関係というものを生み出していかなければならない。サークルは、自由探究の場であると言われるように、探究という言葉をとっても、サークルの特殊性を無視することは出来ないと思うのです。最近、サークルの低迷化、マンネリ化といった言葉をよく耳にします。何故に、このような言葉が言われるのか？そこには、現在の我々が、求めようとすることに対して、積極的に求めようとすることに対して、積極的に求めようとしない、つまり、受身的な考え、受身的な姿勢でしかないからでは……サークルに於いて、自己の存在を強く主張し、自由探究の場としてあるサークル活動に、単に、属している、寄り合い的な姿勢で臨んでは、いけないと思うのです。我々は、自己が求めていることに対して、誰かが与えてくれるだろうとか、教えてくれるだろうという受身的な考え方を持っていては、これからの書道部の発展性、向上性、そして又、自己の向上というものは失ってしまうだろう、だからサークルにとって、個々の人々の積極的な姿勢というものが、大切になっていくと思うのです。このように言うと、サークル活動しか自己にとってないのではないかと思われがちですが、そして、自分はサークル活動が唯一のものではない、他にしなければならないことがあると……確かに、最初に言ったように、各々の考え方が違うように、自己の行動、活動も相違すると思うのです。ここで言いたいことは、書道だけしろとかいっているのではなく、与えられた場として、その場において、精一杯やったらどうかということ、何事をするでも中途半端で終ってほしくないということです。サークル活動は、誰がやるのでもなく、他人がやってくれるのでもなく、自分自身がやっていかなくてはいけないと思うのです。そうすることが全ての面に於いて、責任感も出てくるし、やらなくてはいけないという意欲も自然と出てくると思うのです。

大学生

昭和五十一年度卒　大庭敏夫
（昭和四十九年　経済学部　二年）

私の友人が今年、特待生に選ばれました。成績を聞いてみると全部優だったそうです。今、私は書道部員です。二年生です。そして十月には役員改選があります。今私は、「荒鷲」の原稿を書いています。下宿の友人が後でギターを弾いています。下宿の先輩が後でコーラを飲んで寝ています。今十時十五分です。今月分の残りは、あと三〇〇円。明日はバイトに行きます。土方なんです。私のいる下宿には末広さんと本村さんが下宿しています。同じ下宿なんです。明日は授業があります。しかしさぼります。今は夏休み前。授業へ出席しても学生の姿は、ところどころに影をみる程度です。

勉強はしていません。やる気はあります。最近、思考力が衰えています。勉強しないためです。大学は自由なところです。とっても居心地がいいです。このままで四年間を過してしまうと、どういうことになりますでしょうか。大学は怖いところです。自由なところなんです。自由という恐ろしさの中に今、自分は、うもれています。

私は書道部員です。大学へはいって、始めて書道を始めました。夏休みには二回目の錬成会。三回目の合宿に行きます。青年の家には、夏と春二回いきました。大学での初めての経験でした。クラブでの経験でした。去年の一・三年合同コンパで自分の酒の限界を知りました。バカでした。酒をがぶ飲みし途中で記憶が、なくなったのです。次の記憶といえばもう自分の下宿の蒲団の中で寝ていました。誰かに、下宿までつれていってもらったのです。それすら自分の記憶にないのです。大学での初めての経験でした。クラブでの経験でした。大学とは学問の場でありまた人間形成の場であります。今の自分にとって人間形成の場は、主にクラブであろうと思います。

そんな自分が今、もしクラブをやめたら……。

当時の原稿を背筋が、むずがゆくなる思いで読み返しました。あまり上手な文章ではありませんが当時の光景が目に浮かんできます。私も社会に出て早や五年目。毎日荒波にもまれています。学生時代の贅沢な時間の使い方も今となっては、よき思い出です。

現役の皆さん、クラブ活動を続けて、何事にも自分から進んで挑戦しより多くの経験を積み重ねてください。それが社会へ出てからの基礎となります。長い休みの間に旅に出るも結構。遊ぶも結構。社会に出ると長期の休みなんてありませんぞ。

ただ社会に出れば否応でも大卒と高卒に、分けられます。社会人、特に上役は、大卒はそれぞれの専門の知識をある程度持っている者として扱ってきます。その場になって「わかりません」では、あなたが恥をかきますよ。その点をよく踏まえて学問にも、また人間性にも、より磨きをかけて卒業して下さい。

第二十一代年間行事

七隈祭（五十五年十月三十一日～十一月六日）

一週間の日程の中、我々書道部の作品を対外的にアピールするには連盟展と並んで最も重要な行事である。各自二点以上出品し講師、OBの方々の作品も加わりバラエティーに富んだものとなった。

また、市中パレードにおいては〝昔話シリーズ〟と題し一、四年が仮装しなかなかの人気を得ていた。バザーでは、女子部員が一丸となって調理に取り組み、男子の呼び込みも加わって活気あふれる雰囲気の中無事終了した。

クリスムスパーティー（五十五年十二月十三日　於ケネスブラウン）

一年間の労をふきとばすようにと、生バンドの演奏、歌、また部員の芸などの様々な出し物で、楽しさを満喫した。最後にディスコ&チークで一層盛り上った。

連盟リーダーストレーニングキャンプ

（五十五年十二月二十五～二十七日　於英彦山青年の家）

これからの各大学の書道部を担う役員養成の為に行なわれた。窓の外は大雪であったが、討論は白熱したものとなった。

卒業生パーティー　（五十六年一月六日　於ガーデンパレス）

連盟の卒業生の労をねぎらう為に行なわれた。

卒業生追い出しコンパ（五十六年二月八日　於鳥政）

4年間書道部で活躍されてこられた先輩方の労をねぎらい開かれた。この日の部員の飲みほした銚子の数は三百本とすごいものであった。在校生からは、記念品が、また、卒業生からは墨すり機と墨が贈られた。

春季合宿（五十六年二月十七日～二十一日　於江田島青年の家）

今年で4回目となった広島県江田島での合宿である。討論中心のこの合宿では、各個人、各学年の一年間の反省をし、理想のサークル論を踏まえた上で次期学年の方向性をうち打して行った。登山、カッター訓練などのような体で得たものにも、すばらしいものがあった。

新入生勧誘週間（五十六年四月十四日～二十日）

各サークルが勧誘をする中、我が書道部でも、かわいい後輩を見つけようと二年生が中心となって新鮮味の漂う人にアタック！その結果、今年は予想に反して男子が圧倒的に多く女子は三名となったが、二年、三年生からも入部希望があったことは、よろこばしいことである。

新入生歓迎コンパ（昭和五十六年四月二十八日　於平和楼）

小西部長と五名のOBの方々を迎え、これから四年間、何事にも一生懸命頑張ろうという新入生の前途を祝って行なわれた。最近ニュースの急性アルコール中毒を心配した新入生の中から、おもしろい遺言状まで登場して場内をわかせていた。

連盟展（五十六年五月十八日～二十四日　於福岡県文化会館）

福書連の書活動発表の最大の場となる。また、地域社会へのアピールとなり、連盟員各々の書活動の糧となった。

連盟親睦会（五十六年六月七日　於雁ノ巣レクレーションセンター）

連盟の発展を祝すかのように晴れわたった青空のもとで、みんな真黒になって、遊び回った。初めは緊張していた一年生も、徐々になれてきてゲーム、イントロ当てクイズなどを他大学の人達といっしょに行い、交友は深まったものと思う。

学術文化発表週間（五十六年六月二十二日～二十八日　於一号館ロビー及び階段）

新入生は九成宮、蘭亭序の臨書作品、二年生以上は半切を中心に臨書あるいは創作作品を展示する。また今回は書道研究として班に分けて、模造紙に研究内容を書いたものも加わる。

夏季合宿（五十六年七月十六日～二十日　於宮地嶽神社）

書技向上を最大の目的とし四泊五日の日程で、寝食を共にし、決められた時間帯の中、各人がはっきりした目標をもち己れ自身に打ち勝つよう努力していくものである。今年は百二十畳という広い練習場が確保できたので各自思いきり練習できると思う。

県展合宿（五十六年七月二十一日～八月十二日　於学而会館）

文字通り福岡県展をめざして行なう合宿である。毎年、数人の先輩方が入賞、入選されてきた。今年も多数の参加者を望む。

錬成会（五十六年八月二十六日～三十日　於英彦山青年の家）

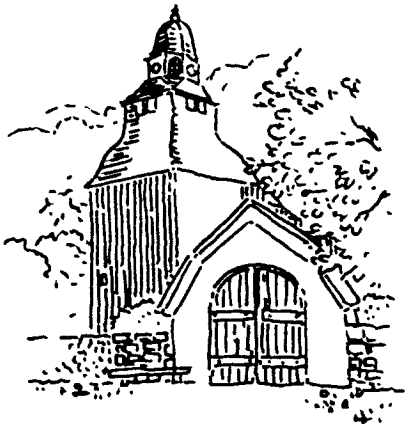
下界よりも五度ほども涼しい、すばらしい環境のもとで、連盟員の親睦融和、書技向上を目ざして行なわれる。他大学の書風など知るにはいい機会である。

役員改選

第二十二代として書道部を運営していく役員を選出する。

西日本高等学校揮毫大会（五十六年十一月十五日　於第一記念会堂）

西日本地域の高等学校を対象にした揮毫大会である。我々書道部で主催し、我々自身で大会一切を運営していくもので、書道部員として誇りえる行事である。決められた役割を各人が責任もって果すことによりこの大会の成功へとつながるものである、今回で二十一回大会となるが益々充実した大会にしようではないか。



夏季合宿

行事を振り返って

二年　大宮　一

私が入部して現在に到る迄に消化した行事の中で印象深いものは、合宿の一つである夏季合宿である。スケジュール表を見れば〃練習〃という言葉で埋め尽くされ、その間に三度の食事と数回の休息時間があるだけの合宿である。日常生活が計画性に乏しいだけにこの五日間が骨身に染みる。いわば精神統一の五日間であるともいえる。

では何故この五日間の合宿が、重要不可決なものであるか……。やはりそれは、第一に書技の向上の礎の為、第二には寝食を共にすることで部員相互の理解を深めるという目標ゆえんであると思う。

私達の日常生活つまり学生生活において、規則正しさや敏速な行動、物事に対する真剣さ、礼儀等、現代の風習に押し流され忘れかけているものではないだろうか……？　目標を持てず、目標を持ったとしても意志の弱さ、自分に対する甘えからルーズな行動を重ねていき目標に達成できずに終わってはいないだろうか……？　一人の人間は弱いものだと思う。しかし数人の人間が同じ目標を持っていればその弱さも半減する。

集団の利点をうまく生かしながら個人の習練を計る。又、個人の努力を回りに広げていくこともできる。合宿とは、これらの事を、実践する場であると思う。夏季合宿では、環境に屈せず自ら自己の開拓に努めることを望みたい。

西日本高等学校揮毫大会

三年　手島　玲子

西日本高等学校揮毫大会。それは、高校生への書道文化の普及と、我が書道部の充実を計るものです。高校生のこの大会にかける意気込みは、すごいものがあります。一年間の目標をこの大会において練習している高校もあるくらいです。私は、この大会に主催者側として初めて参加したのですが、まずは、その規模に驚きました。なんといっても、あの福大の第一記念会堂が一杯になるくらいの人数が、南は鹿児島から、西は山口までの各県より集まってくるのです。

また、この大会は、福大書道部の主催であるというところに大きな意義があります。前準備から大会当日までの企画、運営などすべて我々だけで行なうのです。大会当日には、各県からやってくる高校生を、博多駅、天神まで出迎えに行ったり、揮毫会場での案内、揮毫終了後すぐに行なわれる審査、これらのことを部員が手わけして行なうわけです。部員数には限りがあるので、みんな自分にあたえられた任務は確実にてきぱきとやることが要求されます。そこで、全体の中の個人の存在感、また、みんなの協力性を産みだすことも可能となるのです。

しかし、ややもすると、この大会の大きさに自分が負けてしまい、自

分の意志なくして、ただ時に流されてしまうことがあります。それには自分でなんのために、このような大会を行なっているのか、もう一度考えてみることが必要だと思います。このような反省をしてこれからもこの大会を続けて行くなら、書道部員の得るものは大きいと思うのです。

春季合宿

二年　小田部　一二三典

江田島の青い海と、山の緑に囲まれた国立江田島青年の家、一年間の総決算ともいえる春季合宿。それは自分にとって反省と失望とわずかな期待を得た合宿であった。一年間、自分は、書道部という一サークルに所属して、はたして何をやってきたのだろう。その一瞬一瞬は力一杯やっているつもりでも、それがどれだけのものになっただろうか。もしかしたら、何も自分のものになっていないのではないか。そう考えさせられたのがこの合宿だった。

ただ自分にとっていえることは、この一年が、体験の場であったといえるだけだ。その反省をもとに、今後のサークルを運営していかなければならない自分達二年にとっても同じことが言えるのではないか。理想のサークル像とは、本当の先輩後輩とは、などといくら頭の中でわかっていても行動が伴なわないとだめだ。行動をするにしても、そこには何らかの理論があるはずである。そこらをもう少し考え直さなければいけないのではないかと自分はこの春季合宿で一番強く感じた。そして、実際にその理論を基に行動がなされているかを問いたい。

この合宿での思い出は、カッター訓練と古鷹山登山であった。カッター訓練を行なう中で、自分の力がなければカッターは動かないし、ひいてはサークルが動かない。サークルというのは一個人の集団である。その一個人が一人でも動かなくなれば、皆がそれを励まし、そのサークルの中で動ける様にしてやらなければならない。その一個人は、自分の力がないとサークルは円滑にやっていけないのだという意識を持つだろう。また、仲間というものは素晴らしいと考えるだろう。そういう意味に於いても、このカッター訓練、古鷹山登山は素晴らしいものだった。

この合宿を通し学んだものは、他にも沢山あるが、自分に強く印象に残っているものは以上のことである。

昭和５５年度　夏季合宿　（福岡県　ユースホステル金剛閣）

第 20 回西日本高等学校揮毫大会　（S. 55. 10. 19）

昭和５６年　春季合宿　（広島県　於　江田島青年の家）

つたえつがれた伝統の味

俵屋　紫ぶ瀬の　心つつみ

心つつみ・マロンゴールド
福多和良・ひとつつみ
せおと・くずきり

本店・福岡市中央区警固1丁目13－1
（国体道路警固三ッ角俵屋ビル1Ｆ）

電話 神岡(092) 761-2220
有名百貨店にてもお求め下さい。

印章・書文字・印刷

泰陽はんセンター

〒810 福岡市中央区草香江2丁目9－1　TEL 092 (714)7911

FESTIVAL'81

飲んで、歌って、食べて、踊れる

若者の店「ぽけっと」パーティ料理

5名様より予約承ります。

だんぜん安い!!
1,000円コース

〈お1人様〉
- ★サラダ
- ★クラッカー
- ★からあげ
- ★焼そば
- ★スープ

ボリュームたっぷり!!
2,000円コース

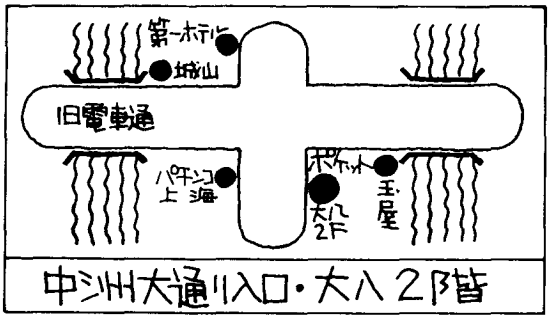
〈お1人様〉
- ★サラダ
- ★クラッカー
- ★サンドウィッチ
- ★からあげ
- ★とんかつ
- ★ベーコン巻
- ★焼そば
- ★スープ

もういうことなし!!
3,000円コース

〈お一人様〉
- ★サラダ
- ★クラッカー
- ★サンドウィッチ
- ★からあげ
- ★とんかつ
- ★コロッケ
- ★ベーコン巻
- ★焼そば
- ★焼　肉
- ★ウィンナーバーベキュー
- ★スープ

人数・ご予算にあわせてイロイロご希望に応じます。

●サービス料・席料などは一切いただきません。



・飲んで・歌って・食べて・踊れる

ぽけっと

TELEPHONE 291-4078

営業時間　18:00～26:00

食事と喫茶

きらくな横丁

七隈店 ☎871－3244
六本松店 ☎711－8044

営業12:00PM～12:00AM

つくって売る店 高級寝具専門店

田中ふとん店

六本松大通りバス停前 ☎741-4786・731-0858

リスドオール長尾店

福岡市西区大字片江神松寺1689－7
営業時間 午前5時～午後9時30分

シエル石油株式会社
新出光石油株式会社 販売店

有限会社ゆたか石油長尾給油所

福岡市西区片江神松寺7815番1 TEL871－6556

「学割あります」

グリンレンタカー

福岡市中央区六本松3丁目8の5
TEL（761）7325

製造販売

大川㊙家具

福岡市西区片江1152－8 TEL871－4021

和洋酒類・飲料水・たばこ・切手

蝶屋酒店

福岡市西区片江・TEL(871)－5258

厚生大臣指定校

福岡調理師専門学校

今か決断の時、資格はいきかい。
スペシャリストにあなたも!!

昼間
◆定員……150名

夜間
◆定員……50名
■修業年限……1ヵ年(昼)
1ヵ年半(夜)
■入学期……四月
■国家試験不要 調理師免許授与
■入学資格…中卒以上、男女年令不問
■他に茶懐石科・喫茶スナック科
家庭料理科もあります。
※就職及びアルバイトのお世話致します
◆入学案内は左記へ◆

学校法人 福岡家政学園
〒810福岡市中央区天神3丁目6－35
(タイエー、ハースより西方に歩いて1分)
☎092(761)6155㈹

★クレジットで気軽にショッピング★
宝石・メガネ・時計

ホソタニ

〒814－01 福岡市西区片江油山観光通り商店街
TEL 801－2103

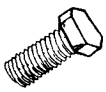
学生さんのアパート捜しは

六本松地所

福岡市中央区谷1丁目13－1
(六本松3丁目バス停前)
TEL 771－6859

バイクのことなら

BikeRoad



梅林バス停前 TEL801－1748

おいしい出前をお届け致します

ちゃんぽん停

営業時間　AM11：00～PM11：00
ＴＥＬ 871－1230
西区七隈四ツ角交差点

チャンポン	￥350
焼そば	￥350
焼めし	￥350
たかなめし	￥350
※大盛各メニュー	￥500

味自慢　御かまぼこ

上田蒲鉾店

福岡市中央区六本松 電話 (741)7109

ニチイグループ
サンマート
七隈店

ニチイグループ
サンマート
七隈店

営業時間
AM10：00～PM9：00
西区七隈字末石
ＴＥＬ 863-2969

家庭用品、建築金物、硝子器、陶器他

義 大穂金物店

福岡市西区友丘二丁目２－40
ＴＥＬ 871－0251

額縁・表装

萬年堂

福岡市西区鳥飼４丁目１－39
TEL 821－7767

福岡大学書心会

〈規約〉

第一章　総則

第一条　本会は福岡大学書道部書心会と称する。

第二条　本会は事務室（本部）を福岡大学書道部内に置く。

第三条　本会は支部を置くことができる。

第二章　目的及び事業

第四条　本会は会員相互の親睦を図り、書道文化の普及、向上に努めると共に福岡大学書道部の後援を行ない以って斯道に貢献する事を目的とする。

第五条　本会は前条目的達成の為次の事業を行なう。

一、書道の振興に関する事業

一、書道に関する研究物、機関誌等の刊行

一、関係諸団体との親睦及び連絡提携

一、各種展示会出品

一、其の他前条目的達成の為必要と認めた事業

第三章　組織

第六条　本会正会員は福岡大学書道部員として登録をなし卒業をした者を以って構成する。但し強制するものではない。

第七条　本会に総会、評議委員会を置く。

第四章　役員

第八条　本会は次の各号の役員を置く。

一、会長（一名）

一、副会長（一名）

一、評議委員長（一名）

一、副評議委員長（二名以内）（会計兼務）

一、評議委員（原則として各代一名とする）

第五章　役員の職務

第九条　本会の役員は次の職務を行なう。

一、会長は本会を統轄し、且つこれを代表する。

一、副会長は会長を補佐し、会長に事故ある時は、その職務を代行する。

一、評議委員長は、評議委員会を統轄し、且つこれを代表する。

一、副評議委員長は、評議委員長を補佐し、評議委員長に事故ある時はその職務を代行する。

一、評議委員は書心会の企画、立案にあたる。

第十条　役員の任期は二年間とし、定例総会に於いて選考するものとする。

第六章　総　　会

第十一条　総会は書心会の最高決議機関である。

第十二条　書心会総会は会員を以って構成する。

第十三条　書心会総会は次の各号の場合、書心会会長がこれを召集する。

一、定例総会（年一回）

一、会長が特に必要と認めた場合

一、評議委員会が必要と認めた場合

第十四条　書心会総会は出席会員を以って成立する。

第十五条　書心会決議は出席会員の過半数を必要とし、同数の場合は議長がこれを決定する。

第十六条　書心会総会議長は書心会会長がこれにあたる。

第七章　評議委員会

第十七条　書心会の執行機関として本委員会を置く。

第十八条　評議委員会は評議委員をもって構成する。

第十九条　評議委員は次の各号の場合、評議委員長がこれを召集する。

一、会長が必要と認めた場合

一、評議委員長が必要と認めた場合。

第二十条　評議委員会の成立、並びに議決は書心会総会に準ずる。

第二十一条　評議委員会議長は評議委員長がこれにあたる。

第八章　会　　計

第二十二条　本会の会計年度は毎年一月一日より始まり十二月三十一日に終わる。

第二十三条　本会会費は総会に於いて決定する。

第二十四条　会計は総会に於いて、その年度の会計報告を行なうものとする。

第二十五条　会員は書心会運営費用として毎月三月三十一日までに会費納入の義務を負う。

第九章　入会及び退会

第二十六条　入会については、第十七条に該当するもので且つ、本人の申し出によるものとする。

第二十七条　書心会をやむをえぬ事情の為、退会する場合は書面をもってすみやかに申し出る事。

第二十八条　書心会を退会し、再入会の申し出があった場合、評議委員会の承認を得た者について入会を認める事がある。

第二十九条　書心会で本会の名誉を　損し、また会員としての体面を汚し、もしくは不都合な行為があった場合、総会の決議により退会を命ず。

第三十条　二年間会費を滞納したものに於いては退会を命ず。

第十章　改　　正

第三十一条　本会規約の改正は評議委員会の審議を経て総会出席者の三分の二以上の賛成を得なければならない。

第十一章　附　　則

第三十二条　本会規約は、昭和五十六年一月一日に改正する。

第三十三条　本約規は、昭和五十六年一月一日に施行する。

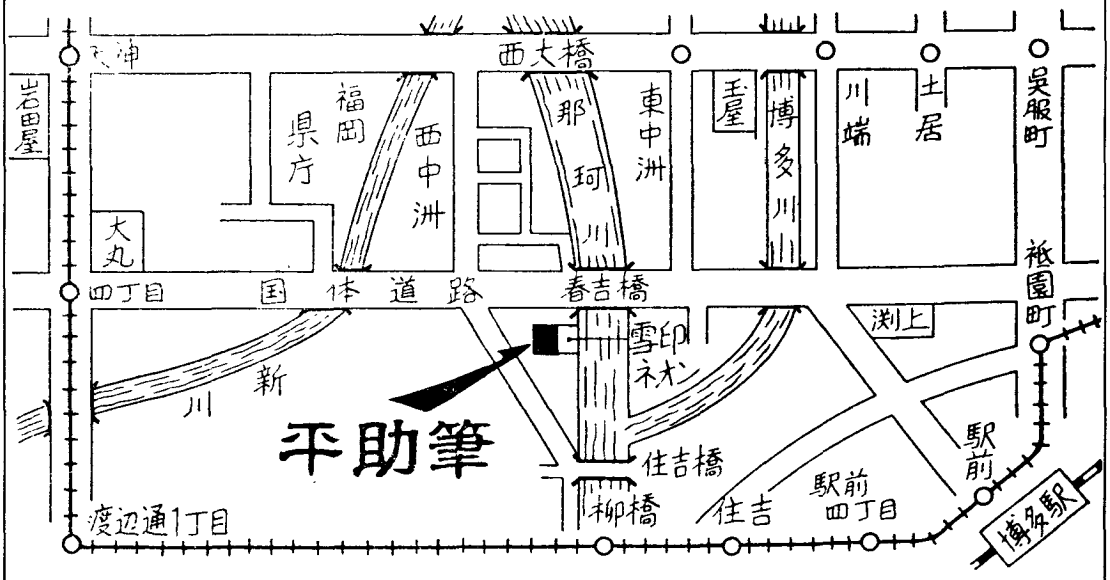
筆・墨・硯・紙・書籍

中国書道用品・展覧会の搬出、搬入

■駐車場有り

株式会社 平助筆復古堂

福岡市中央区春吉３丁目３街区９号
ＴＥＬ(761)５１２２・(761)０８８４



メガネ
コンタクトレンズ
時　計
宝　石

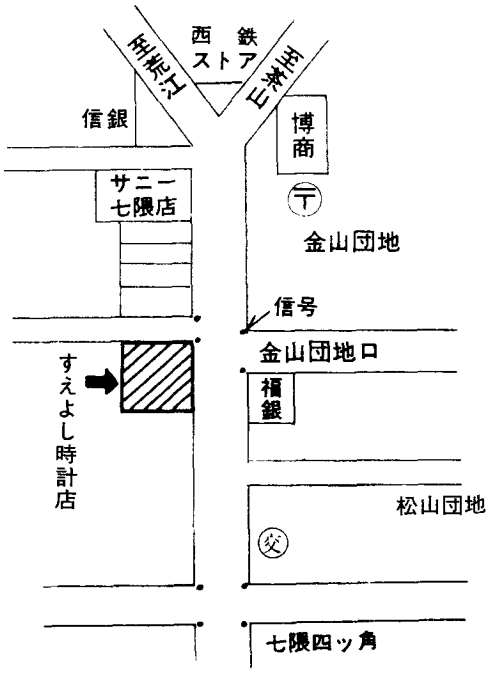
学割の店

日本眼鏡士・一級技能士の店

すえよし時計店

福岡市西区七隈4－3－1（サニー七隈店横）
ＴＥＬ092（801）0263

どこよりも少しでも安く良い
品をと常に心がけております
御用命下さいませ
どんな時計の修理も
致します
お電話頂ければお伺い
致します



いう所はね……。

これから四年間、この書道部にずっとついていけるかどうか自分でも

編集後記

この時に間近のそろそろ日射しも初夏の色をこくしてまいりました。本年も、『荒野』の発刊も二十二号を迎えることになりました。

発刊するにあたり、部員各々が投稿しあい、みんなで走り回って広告を集めたことなどにより、この『荒野』が一層身近なものとなったと思います。また二十二号『荒野』には、OBの方数人の現役時代の文章を載せております。これを現役部員が、今後の糧とされることを期待しております。

尚、最後に色々と御協力をいただきました、諸先生方並びに、OBの方々、関係諸氏の方々に対しまして、紙面ではございますが、心より御礼申し上げます。

荒野　第二十二号

福岡大学学術文化部会誌第十八号部

昭和九十六年七月発行

発行責任者　床嶋　修一

編集責任者　鬼　塚　富　美

江里口　吉　光

発行所　福岡大学学術文化部会事務局

〒八一四　福岡市西区七隈十一番地

電話　八〇一八四三

印刷所　川　島　弘　文　社

〒八一二　福岡市東区箱崎ふ頭六丁目四一四

電話　六四一一六六五